

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		学部設置								
フリガナ設置者		カウソウホリジン コウナンジヨシカクエン 学校法人 甲南女子学園								
フリガナ大学名称		コウナンジヨシカクイフク 甲南女子大学								
大学本部の位置		兵庫県神戸市東灘区森北町6丁目2番23号								
大学の目的		本学は、全人教育・個性尊重・自学創造の伝統を基調として広く知識を授け、深く専門の学術を教授研究し、誠実にして品位のある人格を養うとともに、教養高き女性を育成し、国家社会の進運に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的		心理学の基礎を身につけた上で、社会や身近にある課題に気づき、客観的な観察力、論理的な思考力、数量的なデータ処理能力、AI等の先進的なテクノロジー、共感性及びコミュニケーション力を活用し、その解決に向けて取り組むことができる人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	心理学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	兵庫県神戸市東灘区森北町6丁目2番23号	
	心理学科	4	90	3年次	360	学士(心理学)	文学関係	令和7年4月 第1年次		
	計		90	-	360					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		人間科学部心理学科（廃止）（△90） ※令和7年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	心理学部 心理学科	147科目		33科目	14科目	194科目	124単位			
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	心理学部 心理学科	5人 (4)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	10人 (9)	0人 (0)	116人 (116)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (9)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (9)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
分	計	5 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	— (—)		

既	文学部 日本語日本文学科		6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	147 (147)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
設	文学部 メディア表現学科		5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	123 (123)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)			
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)			
分	国際学部 国際英語学科		7 (7)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	152 (152)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	13 (13)			
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		7 (7)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	13 (13)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		7 (7)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	13 (13)			

既	国際学部 多文化コミュニケーション学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	144 (144)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
人間科学部 総合子ども学科	13 (13)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	132 (132)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 8 人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	19 (19)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	13 (13)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	19 (19)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	13 (13)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	19 (19)				
人間科学部 文化社会学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	117 (117)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)				
分									

既	人間科学部 生活環境学科		6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	108 (108)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 7 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)				
看護リハビリテーション学部 看護学科		10 (10)	8 (8)	10 (10)	9 (9)	37 (37)	1 (1)	161 (161)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 9 人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	8 (8)	10 (10)	9 (9)	37 (37)					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	10 (10)	8 (8)	10 (10)	9 (9)	37 (37)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	10 (10)	8 (8)	10 (10)	9 (9)	37 (37)					
看護リハビリテーション学部 理学療法学科		7 (7)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	161 (161)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	16 (16)					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	16 (16)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	7 (7)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	16 (16)					

既 分	医療栄養学部 医療栄養学科			5 (5)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	15 (15)	1 (1)	161 (161)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 8 人		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの			5 (5)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	15 (15)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）			5 (5)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	15 (15)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）			5 (5)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	15 (15)					
分	計			70 (70)	36 (36)	31 (31)	15 (15)	152 (152)	2 (2)	－ (－)			
合 計				75 (74)	40 (40)	32 (32)	15 (15)	162 (162)	2 (2)	－ (－)			
職 種				専 属			その他		計				
事 務 職 員				71 (71)			59 (59)		130 (130)				
技 術 職 員				0 (0)			0 (0)		0 (0)				
図 書 館 職 員				4 (4)			7 (7)		11 (11)				
そ の 他 の 職 員				0 (0)			0 (0)		0 (0)				
指 導 補 助 者				0 (0)			0 (0)		0 (0)				
計				75 (75)			66 (66)		141 (141)				
校 地 等	区 分		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計				
	校 舎 敷 地		77,760㎡	0㎡		0㎡			77,760㎡				
	そ の 他		9,250㎡	0㎡		0㎡			9,250㎡				
	合 計		87,010㎡	0㎡		0㎡			87,010㎡				
校 舎			専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計				
			54,877㎡ (54,877㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)			54,877㎡ (54,877㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室	190室		教 員 研 究 室			161室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種		機械・器具 点	標本 点	学部等単位 での特定不 能なため、 大学全体の 数
			心理学部		526,934 [178,141] (508,411 [176,706])	1,203 [387] (1,161 [384])	34,310 [27,030] (33,104 [26,812])	28,411 [25,994] (27,412 [25,785])	30,542 (29,644)	176 (171)			
	計		526,934 [178,141] (508,411 [176,706])	1,203 [387] (1,161 [384])	34,310 [27,030] (33,104 [26,812])	28,411 [25,994] (27,412 [25,785])	30,542 (29,644)	176 (171)					
	スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂			厚生補導施設			大学全体		
		1,935㎡		5,403㎡			2,149㎡						
経費 の見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円				
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円				
		図 書 購 入 費	4,406千円	2,950千円	3,400千円	3,850千円	4,300千円	－千円	－千円				
		設 備 購 入 費	17,331千円	4,592千円	9,184千円	13,776千円	18,367千円	－千円	－千円				
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
				1,360千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入等										

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人

	大 学 等 の 名 称	甲南女子大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部	年	人	年次 人	人		倍		兵庫県神戸市東灘区 森北町6丁目2番23号
	日本語日本文学科	4	80	－	320	学士（日本語日本文化）	1.07	昭和39年度	
	メディア表現学科	4	70	－	280	学士（メディア表現学）	0.96	昭和39年度	
							1.20	昭和39年度	
	国際学部						0.88		
	国際英語学科	4	110	－	440	学士（国際英語）	0.74	令和2年度	
	多文化コミュニ ケーション学科	4	80	－	320	学士（学術）	1.06	令和2年度	
	人間科学部						0.93		
	心理学科	4	90	－	360	学士（心理学）	0.99	平成13年度	
	総合子ども学科	4	150	－	600	学士（教育学）	0.82	平成18年度	
	文化社会学科	4	80	－	320	学士（社会学）	0.88	平成13年度	
	生活環境学科	4	80	－	320	学士（生活環境学）	1.10	平成13年度	
	看護リハビリ テーション学部						0.98		
	看護学科	4	100	－	400	学士（看護学）	1.07	平成19年度	
	理学療法学科	4	60	－	240	学士（理学療法学）	0.83	平成19年度	
	医療栄養学部						1.03		
	医療栄養学科	4	80	－	320	学士（医療栄養学）	1.03	平成30年度	
	人文科学総合研究科								
	言語・文学専攻 博士前期課程	2	9	－	18	修士（文学）	0.05	平成17年度	
	言語・文学専攻 博士後期課程	3	3	－	9	博士（文学）	0.00	平成17年度	
	心理・教育学専攻 博士前期課程	2	13	－	26	修士（人間科学）	0.61	平成17年度	
	心理・教育学専攻 博士後期課程	3	3	－	9	博士（人間科学）	0.00	平成17年度	
	社会・文化環境学専攻 博士前期課程	2	9	－	18	修士（人間科学）	0.16	平成17年度	
	社会・文化環境学専攻 博士後期課程	3	3	－	9	博士（人間科学）	0.44	平成17年度	
	看護学研究科								
	看護学専攻 博士前期課程	2	5	－	10	修士（看護学）	0.20	平成24年度	
	看護学専攻 博士後期課程	3	3	－	9	博士（看護学）	1.22	平成30年度	
附属施設の概要		該当なし							

- (注)
- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
 - 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
 - 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(心理学部心理学科)																			
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 （助 手 を 除 く） 教 員	
全 学 共 通 科 目	基 礎 科 目	科大目学	大学を知る	1前			2		○								1		
		基礎 ス キ ル 科 目	アカデミックスキルズ	1前・後			2		○									3	
			グループ討論トレーニング	1・2・3前・後			2		○									1	
			思考力トレーニング	2・3前・後			2		○									1	
			日本語リテラシーⅠ	1・2・3前			2		○									1	
			日本語リテラシーⅡ	1・2・3後			2		○									1	
		リー ダ ー シ ッ プ 科 目	リーダーシップ入門	1・2・3前			2		○									1	
			リーダーシップ基礎	1・2・3後			2		○									1	
			他者のリーダーシップ開発Ⅰ	2・3前			2		○									1	
			他者のリーダーシップ開発Ⅱ	2・3後			2		○									1	
	他者のリーダーシップ開発Ⅲ		3・4前			1		○									1		
	教 養 科 目	人 文 科 学 科 目	他者のリーダーシップ開発Ⅳ	3・4後			1		○								1		
			アクションラーニング演習	2・3前			1			○								1	
			哲学入門	1・2・3後			2		○									1	
			倫理学入門	1・2・3後			2		○									1	
			宗教学入門	1・2・3後			2		○									1	
			日本古典文学入門	1・2・3前			2		○									1	
			日本近代文学入門	1・2・3後			2		○									1	
			日本文化史	1・2・3前・後			2		○									1	
			言語学入門	1・2・3前			2		○									1	
			社会言語学入門	1・2・3後			2		○									1	
		社 会 科 学 科 目	人間関係論	1・2・3前			2		○									1	
			美術史概説	2・3前・後			2		○									1	
			民俗学概論	2・3前・後			2		○									1	
			考古学概論	2・3前・後			2		○									1	
			日本史概説	2・3前			2		○									1	
			外国史概説	3・4前			2		○									1	
			日本国憲法	1・2・3後			2		○									1	
			法学概論	1・2・3前			2		○									1	
			政治学概論	1・2・3前			2		○									1	
			経済学概論	1・2・3前			2		○									1	
	自 然 科 学 科 目	社会学概論	1・2・3前			2		○									1		
		メディア表現入門	1・2・3前			2		○									1		
		人権教育	1・2・3前・後			2		○									1		
		ボランティア論	1・2・3前			2		○									1		
		文化人類学入門	1・2・3後			2		○									1		
		子ども・子育て入門	2・3後			2		○									1		
		AIとライフデザイン	2・3後			2		○									1		
		人文地理学	2・3後			2		○									1		
		生物学の基礎	1・2・3前・後			2		○									1		
化学の基礎		1・2・3前			2		○									1			

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基幹 （助 手 を 除く） の 教員	
全学 共通科目	教養 科目	健康 科学 科目	看護学の世界	1・2・3後		2		○								1		
			女性の生涯と健康	1・2・3後		2		○								1		
			保健概論	1・2・3前・後		2		○								1		
			リハビリテーション入門	1・2・3前		2		○								1		
			健康に生きる	1・2・3後		2		○								1		
			女性と運動	1・2・3後		2		○								1		
			女性のための栄養学	1・2・3前		2		○								1		
	総合 科目	女性と ジェン ダー科 目	ジェンダー論入門	1・2・3後		2		○								1		
			女性と家族	1・2・3前		2		○								1		
			女子学	1・2・3前		2		○								1		
			女性の歴史	1・2・3前		2		○								1		
			女性とコミュニケーション	1・2・3前		2		○								1		
			国際社会とジェンダー	2・3後		2		○								1		
			女性と社会・仕事	2・3後		2		○								1		
			女性と身体	2・3後		2		○								1		
			女性のための法律	2・3後		2		○								1		
		国際理 解科目	ヨーロッパの文化	1・2・3後		2		○								1		
			アジアの文化	1・2・3後		2		○								1		
			現代ヨーロッパ事情	1・2・3後		2		○								1		
			現代アジア事情	1・2・3後		2		○								1		
			グローバル社会論	1・2・3後		2		○								1		
	芸術 科目	芸術 科目	海外学習マネジメント	1・2・3前		2		○								1		
			海外演習A	1・2・3前・後		1			○							1		
			海外演習B	1・2・3前・後		2			○							1		
			海外演習C	1・2・3前・後		3			○							1		
			海外演習D	1・2・3前・後		3			○							1		
			海外演習E	1・2・3前・後		4			○							1		
			海外演習F	1・2・3前・後		4			○							1		
			造形芸術(絵画)	1・2・3前		2		○								1		
			造形芸術(彫刻)	1・2・3後		2		○								1		
		キャリア 支援 科目	音楽の基礎	1・2・3前		2		○								1		
			合唱音楽	1・2・3後		2		○								1		
			音楽鑑賞A	1・2・3前		2		○								1		
			音楽鑑賞B	1・2・3後		2		○								1		
	言語・ 情報 科目	言語 科目	オルガン音楽(構造)	1・2・3前		2		○								1		
			オルガン音楽(器楽)	1・2・3後		2		○								1		
オルガン音楽演習			1・2・3前		2			○							1			
日本の文化(茶道)			2・3前		2		○								1			
日本の文化(華道)			2・3後		2		○								1			
ホスピタリティ入門			1・2・3前・後		2		○								1			
キャリアデザインⅠ			1・2・3前・後		2		○								1			
キャリアデザインⅡ			2・3前・後		2		○								1			
キャリアのための日本語			1・2・3後		2		○								2			
キャリアのための数学（ベーシック）			1・2・3前・後		2		○								1			
キャリアのための数学（スタンダード）		1・2・3前・後		2		○								1				
キャリアのための時事問題		2・3前・後		2		○								1				
情報 科目		情報とコンピュータⅠ	1前		1					○						3		
		情報とコンピュータⅡ	1後		1					○						3		
		コンピュータと社会	2・3後			2		○								1		
	情報メディア実習	2・3前			1				○						1			
	ビジネス情報実習	2・3前			1				○						1			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
全学共通科目	言語・情報 科目 情報保障	手話コミュニケーション	1・2・3前			2		○								2	
		ノートテイクの方法	1・2・3前			2		○								1	
	健康・スポーツ 科目	生涯スポーツの科学	2・3前・後			2		○								1	
		トレーニングの科学	2・3前			2		○								1	
		健康・スポーツ科学実習A	1・2・3前			1				○						2	
		健康・スポーツ科学実習B	1・2・3後			1				○						2	
		健康・スポーツ科学実習C	1・2・3前			1				○						1	
		健康・スポーツ科学実習D	1・2・3後			1				○						2	
		小計（119科目）	—	—	10	222	0	—			0	0	0	0	0	91	
専攻科目	必修科目	心理学概論	1前	○	2			○				1					
		心理学統計法（基礎）	1後	○	2			○			1	1				2	
		心理学実験	1後	○	2					○	1		1			4	
		心理学研究法	3前	○	2			○					1				
		心理調査概論	3後	○	2			○				1					
		心理学基礎セミナーⅠ	1前	○	2				○		2	4	1				
		心理学基礎セミナーⅡ	1後	○	2				○		2	4	1				
		心理学応用セミナーⅠ	2前	○	2				○		1	2	1				
		心理学応用セミナーⅡ	2後	○	2				○		1	3	1				
		心理学プロジェクト実践Ⅰ	3前	○	2				○		4	3	1			1	
		心理学プロジェクト実践Ⅱ	3後	○	2				○		4	3	1			1	
		心理学プロジェクト実践Ⅲ	4前	○	4				○		4	3	1			1	
		心理学プロジェクト実践Ⅳ	4後	○	4				○		4	3	1			1	
	選択必修科目	心理学統計法（応用）	2・3前			2		○				1				2	
		心理学統計法（発展）	3・4前			2		○				1				2	
		公認心理師の職責	1・2・3前			2		○			3	2				2	
		臨床心理学概論	1・2・3後			2		○			1						
		知覚・認知心理学	2・3後			2		○				1					
		教育・学校心理学	2・3前			2		○			1			1			
		学習・言語心理学	2・3後			2		○									
		障害者・障害児心理学	2・3後			2		○				1					
		健康・医療心理学	2・3後			2		○				1					
		関係行政論	2・3前			2		○								1	集中
		心理学的支援法	3・4前			2		○								1	
		心理的アセスメント	3・4後			2		○			1	1					
		神経・生理心理学	3・4前			2		○								1	
		司法・犯罪心理学	3・4前			2		○			1						
		精神疾患とその治療	3・4前			2		○								1	
		人体の構造と機能及び疾病	3・4後			2		○								1	集中
		心理学のための英語	3・4後			2		○				1					
		心理演習	2・3前			2			○		2	3				1	
		心理実習Ⅰ	2・3後			1				○	2	2				2	
		心理実習Ⅱ	3・4前			1				○	4	2				3	集中
		心理実習Ⅲ	3・4後			1				○	4	2				3	集中
	キャリア・マネジメント 科目群	キャリア・マネジメント入門	2・3前			2		○			1						
		社会・集団・家族心理学	2・3前			2		○								1	
		消費者心理と広告	2・3後			2		○								1	
		産業・組織心理学	2・3前			2		○								1	
		心理プログラミング・AI演習	3・4後			2			○			1	1				
		グループ・ダイナミックス	3・4前			2		○			1						
	ライフデザイン 科目群	女性のためのリスクマネジメント	1・2・3前			2		○								1	
		暮らしのなかの心理学	1・2・3後			2		○			1	2					オムニバス
		感情・人格心理学	2・3前			2		○			1						
		発達心理学	2・3前			2		○			1						
		コミュニケーション実践	2・3後			2			○		1					1	
		福祉心理学	3・4前			2		○								1	集中
		子ども理解の臨床心理学	3・4後			2		○									
		社会のなかの認知心理学	3・4前			2		○				1					
		動物の心理学	3・4後			2		○						1			
		小計（49科目）	—	—	30	69	0	—			5	4	1	0	0	21	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） 教員 以外 の 教員	
資格科目 司書・学芸員に 関する科目	図書館概論	2前			2		○									1	
	図書館制度・経営論	3前			2		○									1	
	図書館情報技術論	3後			2		○									1	
	図書館サービス概論	3後			2		○									1	
	情報サービス論	3前			2		○									1	
	児童サービス論	3前			2		○									1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1			○								1	
	情報サービス演習Ⅱ	3前・後			1			○								1	
	図書館情報資源概論	2後			2		○									1	
	情報資源組織論	3前			2		○									1	
	情報資源組織演習Ⅰ	3後			1			○								1	
	情報資源組織演習Ⅱ	3前・後			1			○								1	
	図書館基礎特論	2後			2		○									1	
	図書館サービス特論	3前			2		○									1	
	図書館情報資源特論	3後			2		○									1	
	図書・図書館史	2前			2		○									1	
	図書館施設論	3後			2		○									1	
	博物館概論	2前			2		○									1	
	博物館資料論	2後			2		○									1	
	博物館教育論	2前			2		○									1	
	博物館実習	4通			3				○							2	
	博物館情報・メディア論	2後			2		○									1	
	博物館経営論	3前			2		○									1	
	博物館資料保存論	3後			2		○									1	
	博物館展示論	3後			2		○									1	
	タフ・シ ェイ ン グ ・ エ キ シ ー	レクリエーション実習	3・4通			1				○							1
	小計（26科目）	—	—	0	48	0	—				0	0	0	0	0	9	
合計（194科目）			—	—	40	339	0	—			5	4	1	0	0	126	
学位又は称号		学士（心理学）			学位又は学科の分野					文学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
全学共通科目30単位以上（基礎科目2単位以上、教養科目10単位以上、総合科目8単位以上、言語科目8単位以上、情報科目2単位以上）、自学科専攻科目から62単位以上（必修科目30単位、選択必修科目から32単位以上）、自由選択科目（全ての科目区分から自由選択）32単位以上の合計124単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間））									1学年の学期区分				2学期				
									1学期の授業期間				13週				
									1時限の授業の標準時間				105分				

授 業 科 目 の 概 要						
(心理学部心理学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全 学 共 通 科 目	基 礎 科 目	大学 科目	大学を知る		新入生が甲南女子大学の理念、歴史を学び、また卒業生たちが本学で何を学び現在どう社会で活躍しているかを知ることにより、「大学とはどういうところか」「大学で何ができるか」を知るとともに今後の大学生活の過ごし方を自分自身で考えることを目的とする。大学の特色、学園創設者、キャリア、経済リテラシー、女性のリスク管理等、大学生活に必要な知識に加え、女子大学である本学で学ぶ意義についても、自分なりに考察する。	
		基 礎 ス キ ル 科 目	アカデミックスキルズ		大学生活において必要な言語表現の技能と技法を身につけることを目的とする。大学の学修においては、さまざまな場面で文章・口頭ともに適切な日本語の理解、及び表現が要求される。具体的には、ノートの取り方、議事録の作成、レポートの書き方等を取り上げ、その形式と内容の両面について、実践的な演習を通じてその修得を図る。	
			グループ討論トレーニング		「話す」「聞く」という能力の向上を目指す。具体的には、相手に分かりやすく、過不足なく説得力を持って伝えるにはどうしたらよいのか、またどうしたら相手の話を理解しながら聞くことができるのか、その手法を修得する。テーマに沿ってスピーチ原稿を作成し、プレゼンテーションとディベートを通して実践力を身につける。	
			思考力トレーニング		社会の諸事象を探究の対象として捉え、現実の課題を解決するための視点と能力を身につけ、かつ、そのための情報を発信する能力を身につけることを目標とする。そのために、グループワーク等の演習形式を通じて、批判的能力や思考能力、情報発信能力を身につける。諸課題について、資料や文献調査を踏まえて分析・考察し、自分なりの結論を導き、論理的かつ明確に第三者に伝え、第三者の発表に対しても適切に批判する能力を身につける。	
			日本語リテラシーⅠ		社会生活において必要な、物事を多面的に捉える思考や、自分の考えを筋道立てて論じる方法を身につける。文章検定準2級レベルの問題を解き、課題に沿った文章を作成する。また、さまざまな問題や事象を取り上げた文章を読み、問題を把握して分析する。さらに、他者の意見を正確に捉え、自身の考えを論理的に述べる方法を修得し、社会で通用する多様な価値観や多角的なものの見方を学び、メディアリテラシーを実践的に身につける。	
			日本語リテラシーⅡ		社会で通用する多様な価値観や多角的なものの見方を学ぶと同時に、レポートの作成や口頭発表のスキルの向上を目指す。社会生活において必要な、物事を多面的に捉える思考や、自分の考えを筋道立てて論じる方法を身につける。文章検定準2級レベルの問題を解き、課題に沿った文章を作成する。具体的には、分析、検証、評価の手法を身につけ、敬語と通信文やレポート作成の技術を身につける。	
	リー ダー シ ップ 科 目	リーダーシップ入門		リーダーという役職や権限に関わらず、チームの全員がそれぞれの「自分らしさ」を生かしてチームに貢献するという、新しい時代に対応した「全員発揮型のリーダーシップ」について理解し、自分なりに発揮できるようになる。また、リーダーシップを効果的に発揮するために必要となる「論理思考」、「質問」、「自己他者理解」の基礎的スキルを身につける。		
		リーダーシップ基礎		数週間にわたるプロジェクト型学習の中間と最後に振り返りと相互フィードバックを実施し、「自分が他者に与える影響力」を正負両面で理解することによって、より効果的な「全員発揮型のリーダーシップ」を発揮するための方略を立てる。チームの状況を観察して、リーダーシップを自己調整する能力を育成する。		
		他者のリーダーシップ開発Ⅰ		「リーダーシップ入門」の授業内外において、学習アシスタント(LA)として受講生のリーダーシップを開発する。教員の支援を得ながら、授業資料の作成、授業の進行、受講生に対するフィードバックや相談対応を行う。LAとしての経験学習サイクルを回すため、毎回の授業後に授業実践の振り返りをポートフォリオに記述し、期末に成果発表を行う。		
		他者のリーダーシップ開発Ⅱ		「リーダーシップ基礎」の授業内外において、学習アシスタント(LA)として受講生のリーダーシップを開発する。教員の支援を得ながら、授業資料の作成、授業の進行、受講生に対するフィードバックや相談対応を行う。LAとしての経験学習サイクルを回すため、毎回の授業後に授業実践の振り返りをポートフォリオに記述し、期末に成果発表を行う。		

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	基礎科目	リーダーシップ科目	他者のリーダーシップ開発Ⅲ		「他者のリーダーシップ開発Ⅰ」の統括学習アシスタント(統括LA)として、学習アシスタント(LA)のリーダーシップを開発する支援を行う。教員の支援を得ながら、事前、中間、事後の研修設計と実施、授業の実施の支援、振り返りの支援、LA活動に対するフィードバックや相談対応を行う。毎週の活動をポートフォリオに蓄積し、期末に成果発表を行う。	
			他者のリーダーシップ開発Ⅳ		「他者のリーダーシップ開発Ⅱ」の統括学習アシスタント(統括LA)として、学習アシスタント(LA)のリーダーシップを開発する支援を行う。教員の支援を得ながら、事前、中間、事後の研修設計と実施、授業の実施の支援、振り返りの支援、LA活動に対するフィードバックや相談対応を行う。毎週の活動をポートフォリオに蓄積し、期末に成果発表を行う。	
			アクションラーニング演習		アクションラーニング(AL)コーチ養成の基本的なトレーニングを通じて、他者がリーダーシップを発揮する支援のための知識とスキルを実践的に身につける。ALコーチは、多様性の高いメンバーで構成されたチームの会議を進行し、安心・安全な対話と学習の場づくりを行うとともに、問題を多面的に捉えて実効性の高い行動計画を立てるための支援を行う。	
	教養科目	人文科学科目	哲学入門		世界のさまざまな時代の哲学者・思想家たちが、どんなことを考えてきたのか、過去の哲学者の歴史・社会的背景を踏まえた基礎的な知識を身につける。時に哲学者の文章にも触れながら哲学的問いを引き受け、自ら考察する。また、後半には特定の哲学者にかかわらず「言葉」「生きる意味」「死者の弔い」というテーマについても考察する。	
			倫理学入門		倫理学の基本用語やさまざまな原理について理解し、この原理に立脚しつつ現代の生命倫理の問題を考察できるようになることを目的とする。「人はどのように生きればよいのか」という倫理的な問いは、「自分(あるいは我々)はどのような人間に成長したいのか」という人格形成についての問いと結びつく。「人間とは何であるのか」という人間学的な問いを、さまざまな倫理思想や現代の生命倫理の問題と結びつけて検討し、現代における倫理学の意味について討議形式で理解を深める。	
			宗教学入門		現代社会に存在するさまざまな宗教についての基礎的な知識を身につけ、宗教の文化的な側面や信仰としての側面等を理解し、現代人が「良く生きる」ための課題について考察する。世界の宗教としては、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教、神道等を取り扱う。また、現代社会のさまざまな問題に宗教が関連していることを理解した上で、自ら考察できるようになることを目指す。	
			日本古典文学入門		高校までの古典の授業とは少し違った観点から、古典文学作品を読み解く。万葉集、竹取物語、古事記、土佐日記、東海道中膝栗毛等、テーマごとに作品を取り上げ鑑賞し、それぞれの時代に生きた人々の暮らし・思い・感覚を知り、作品の面白さを味わうことで、古典文学作品の魅力、面白さから理解を深める。また、自分たちの文化のルーツを知り、客観視することを目指す。	
			日本近代文学入門		近代に生まれた文学を対象に、作品を読み味わいながら、当時の社会状況や思想及び作品が生まれた背景等も併せて、幅広い視点から小説を読む方法を知り、基礎的な知識を修得する。中でも、映画や雑誌、新聞等、メディアとの関わりについても触れ、豊かな作品世界を味わい、幅広い視点から作品を考察する。また、日本文学が日本文化の一部として重要な教養の一つであり、国際交流においてもあるいは各自の人生においても価値を持っていることを理解する。	
			日本文化史		日本の絵巻物の作品を挙げ、絵巻物から見える日本文化について理解できるようになることを目的とする。絵巻物の画面に描かれている人々や風景は、制作当時の日本を今に伝えるものである。絵巻物という独特な形式ゆえの表現等にも注目し、日本人の豊かな感性についても言及することで、絵巻物を美術史・文化史、両方の視点から捉え、多角的な視点で物事を捉える力を身につけることを目的とする。	
			言語学入門		音声、ことばの単位、文の成り立ち、言語の比較、言語の修得等、さまざまなテーマから、言語学の基礎的な知識を身につける。さらに、言語学がどのように研究されてきたかを歴史的に概観し、多岐にわたる理論や研究の方法を理解する。また、言語学の各テーマに関する基本概念と、言語学の下位分野の概要を理解し、説明できるようになることを目指す。	
			社会言語学入門		ことばが絡むさまざまな問題について、「言語と国家の政策」「外国語教育」「言語と法」「言語障害」といったトピックを中心に学び、科学的証拠を基に理解を深める。言語と言語政策、外国語教育とバイリンガリズム、法と言語の関連性等についての基礎的な知識を修得し、言語障害から起きる問題についても理解することを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養科目	人文科学科目	人間関係論		人間関係における心の働きや、人間関係の礎となるコミュニケーションの理論を総合的に学び、理解できることを目的とする。上記理論の理解を基に、自身の人間関係に生かせるようになることを目指す。また、人間関係とはなにか（自分とはなにか・他者とはなにか）、人間関係の広げ方、自己形成等について学び、集団や組織における人間関係諸相についての基本的事実や法則を理解した上で、人間関係の重要性についても理解を深める。	
			美術史概説		近代日本美術史上、重要な出来事について学び、関連する作家や作品への影響、当時の社会情勢を知ることによって日本美術史の流れを理解する。また、西洋の新しい美術の影響を受けて変化していく日本の美術界を、作品から考察する。さらに、美術史上で興味を持ったテーマを選定し、調査研究結果をレポートにまとめて発表し、意見交換することによって、他者の意見を共有し美術の見方を広げることを目標とする。	
			民俗学概論		各地の人々が自然と向き合い、より良い社会を形成するための知恵や情報を重要視し、口頭で伝承されてきた文化を調査・研究する学問である民俗学についての知識を修得し、民俗学における口承文芸、民話の位置づけを理解することを目的とする。具体的には民話、伝説、昔話、世間話等民話の共通点と相違点や日本各地の類話を通しての地域的特徴等、民話の特性について理解し日本人の自然観・他界観を考察する。	
			考古学概論		日本国内外の各地域における歴史を、考古学的な手法を用いて概観し、遺物資料を用いて歴史を復元する考古学的な手法を修得する。遺物資料を用いて歴史を復元する考古学的な手法を学び、考古学の方法論を用いて研究を進めることでどのようなことが判明するか学修する。また、日本の考古学の具体的な研究事例を通して、旧石器、縄文、弥生、古墳時代の文化や社会について説明できるようになることを目指す。	
			日本史概説		日本の歴史について、特に飛鳥・奈良時代を中心として近代までを学ぶ。これまで学んできた日本の通史を確認するとともに、生活・文化・宗教・社会構造の変化に即して多面的に理解する。兵庫県南部地域を中心とした歴史についても考察する。また、正倉院宝物・正倉院文書について考察する。さらに、史資料の取り扱い方を学び、史料批判を踏まえて歴史を考えるという、歴史学研究に対する理解を深める。	
			外国史概説		過去と現代の間で交わされる積極的かつ豊かな「対話」を通して、私たちは過去を理解するだけでなく、自らを省みる機会や、現代社会におけるさまざまな問題を理解するための重要な示唆を得ることも可能となる。「過去との対話」について段階を踏んで理解することを通して、「外国の歴史を学ぶ」という行為の意味を、自分にも関係のある事柄として考える機会を提供する。	
	社会科学科目		日本国憲法		市民社会と憲法は深く結びついていることを理解できるようになることを目的とする。また、憲法により保障された基本的人権の尊重について、実際に生じた問題に即して自ら考察し、選挙等の身近な事例を通して憲法上の政治制度及び全体的なシステムについて理解を深める。また、これらの基本的な知識を通じて、報道される憲法上の問題を、憲法体系に位置づけて理解できるようになることを目指す。	
			法学概論		法とはどういうものであるかを理解し、法的思考力を身につけ、それに基づいて社会の制度や事件を分析し、自己の見解を表現できるようになることを目的とする。また、家族と法、財産と法、労働と法、国際社会と法といった私たちの身近に現在生じている法的な問題を、新聞記事やその他の資料に目を通して、法的思考方法に基づいて、自分の意見を述べるができるようになることを目指す。	
			政治学概論		政治学の基礎的な内容を幅広く学ぶことで、現代の政治を理解する上で、重要な事柄を身につけるようになることを目的とする。現代の政治はどのような仕組みで行われるのか。民主主義とはどのようなものか。政治を担う人々とは誰で、どのように動いているのか等を学ぶ。政治学の基礎を身につけた上で、現代社会のさまざまな政治現象と課題について、政治学の基礎的な知識を用いながら、自分の言葉で説明することを目標とする。	
			経済学概論		今日の日本経済が直面している諸問題についての知識を修得する。また、税制や社会保障等、大学生や社会人としての女性の実生活と密接に結びついた問題についてより深く理解し考察するとともに、経済用語の基礎を理解し、現実の経済問題を考察するための方法を身につけることにより、論理的に思考する力や問題を解決する力を向上させる。その上で、人間への豊かな感性と想像力を持ち、子どもを育む健全な経済社会について、自分自身で考え判断し行動できるようになることを目指す。	
			社会学概論		社会学は、人間を社会的存在として捉えようとする比較的新しい学問である。主要な概念を取り上げて、その基本的な考え方を論じる。社会学の基礎的用語及び主要学説・理論を理解し、社会学的思考及び視点を身につける。また、社会学的な思考に基づいて、現代社会の問題を考察する力、自分自身の意見を形成・表現する力を身につけた上で、個人と社会とを体系的に結びつけ、「社会の中の自分」を理解できるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養科目	社会科学科目	メディア表現入門		写真、映像、演劇・身体表現、マンガ・アニメ、ワークショップ、デザイン、アート、文学、ニューメディア、インターネットといった幅広いメディア表現を対象とする。メディア表現に関する多様な作品やプロジェクトに触れ、その表現方法の特徴や理論的な背景、分析方法等を学ぶことによって、メディア文化に対する理解を深めるとともに、批判的に読み解く力を身につける。	
			人権教育		教員・社会人として仕事をする際に、あるいは市民として生活する際に必要となる人権の知識・感覚を、基礎的なところから理解し身につけることを目的とする。また、具体的な人権課題（性的マイノリティーや障害者に関する人権課題、部落差別、いじめ問題、等）についての事実を学び、主体的に自分の意見を表現し、人権と自分自身との関係を多面的に理解することを目指す。	
			ボランティア論		日本社会におけるボランティアの意義、動向、活動、課題について学ぶ。社会にどのように関わるか、また貢献できるのかを考え、行動し、自分自身の問題意識について考えると共に、他者の意見を聞き、多様な考えを知り、自身の意見と照らし合わせて社会課題について考える力を身につける。また、企業・福祉・教育・国際協力といった多様な場面の中でボランティアはどのような期待を持たれているのか、実際の活動と課題について考察する。	
			文化人類学入門		文化人類学の基本的な方法と知見を具体的な事例とともに学ぶ。文化人類学は、長期のフィールド調査に基づいて人間の多様な社会・文化的営みについて研究する学問であるため、異質な他者とともにものを見、聞き、考える中で、自分自身が変容する文化人類学の面白さを学び、自他の世界についての「当たり前」を疑い、それを批判的かつ反省的に捉え直すことを目指す。	
			子ども・子育て入門		子どもについての基本的な知識理解と同時に、子育ての価値や意義を学ぶ。家庭訪問型の子育て支援等の多様な子育て支援の現状と意義、子どもの発達における子どもと養育者間の相互作用等を多面的に理解する。また、その上で、子育てと関連づけて考えること、国内外の教育・保育の歴史的背景を踏まえ、子育ての現代的課題を捉えることができるようになることを目指す。	
			AIとライフデザイン		現代は「情報社会」と言われることがあるように、情報技術の発展につれてさまざまな情報メディアが登場し、社会に普及し、影響を与えている。この授業のテーマとなっている「AI」（人工知能）もその一つであり、今後世の中に大きな影響を与えることだろう。AIについて、特に私たちの生活との関わりを考えていくことが、この授業のねらいである。	
			人文地理学		多様で豊かな人間の営みを「空間」の視点から捉え、理解しようとする学問を「人文地理学」と呼ぶ。グローバルとローカル、地域や都市、景観保全や観光、環境や経済、文化、産業、福祉、災害と、極めて幅広いテーマを扱いながら、地理学的なものの見方・考え方を身につけることを目指す。身近な環境から世界的な動向まで、多様な空間スケールを往還しながら、空間と時間と社会という三つの軸から多様な人文地理学的事象を考察する。	
	自然科学科目	自然科学科目	生物学の基礎		現代の生物学が形成される上でのエポックメイキングとなった発見について学ぶ。時代背景にも注目し、これらの発見が社会に与えた影響についても学ぶ。講義前半では医学・生物学の「病原体」との格闘の歴史をたどりながら、科学的実証主義について学び、後半では遺伝子についての研究とそれが社会に与えた影響について学ぶ。	
			化学の基礎		化学の基礎知識を修得することを目的とする。特に、生体や生活環境を構成する物質群の構造と機能を理解するために必要な化学の基本的概念を修得することを目指す。生命を構成する元素と分子の構造と結合、炭素化合物の構造と機能、生体液の性質と生体反応、化学エネルギーと生体エネルギー、及び分析化学について系統的に学修する。有機化学、物理化学、分析化学を中心に化学の基礎を学び、生体物質や生活環境物質の化学構造、化学反応及びその化学分析法を理解することをねらいとする。	
			生化学の基礎		生化学は、生き物が酵素の働きによって生き、動き、増殖し、進化する生命現象を、化学反応のレベルまで分解して理解する分野である。生化学の基礎を学ぶに際して、化学・酵素反応の基本となるアミノ酸やタンパク質、核酸の一般構造やその機能の基礎を最初に学び、次に、人の遺伝病やがん等の主要な疾患における成り立ちの基礎を学ぶ。さらに、移植医療や幹細胞の発展等の最新トピックス等についても学修する。	
			物理学の基礎		大学で科学や科学技術を学ぶために必要となる基本的な物理学を学修し、自然現象で起こる物の道理や仕組みや、医療機器に代表される各種機器類の動作原理に関する理解を目指す。身近にある物体や現象を取り上げ、さまざまな実技を実施することで理解を深める。力と運動、圧力や浮力、熱と光、電気と磁気等、基本的な養護や法則に加え、医療分野や自然科学分野への関わりに物理学の必要性を修得する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養科目	自然科学科目	数学の基礎		数学の概念や考え方を学修する。その中でも今後必要となる統計学を中心に学ぶ。統計学は実験や観察によって得られる限られた情報から、その情報の背後にある世界のあり方を推測する理論であり、自然科学・社会科学を問わず現代の科学の基礎となっている。まずは、身近な事例から統計学を学ぶ意義を理解し、次に統計学に不可欠な確率の基礎、確率変数、二項分布、正規分布を学修する。さらに、推定、検定、相関の手法についても、多くの例題を通し、実際の現象の解析や分析ができる力の修得を目指す。	
			統計学の基礎		統計学は実験や観察によって得られた限られた情報から、その情報の背後にある世界のあり方を推測する理論であり、自然科学・社会科学を問わず現代の科学の基礎となっている。統計学の基本的な概念と考え方、計算方法を学び、統計学の基本的な考え方を理解するとともに、実際にデータを用いながら、データの読み方や表し方、扱い方を修得し、統計学の基本的な概念と考え方、計算方法を学ぶことをねらいとする。	
			生態学入門		生態学の基礎的な知識や考え方について解説し、生態学やその考え方と日常生活との関係について理解する。基礎的な事項として、進化や個体群の動態について学び、二種間の関係として共生、捕食と被食、寄生、競争について理解する。その後、身近な地域（例えば六甲山等）に生息する動植物を取り上げながら、群集が共存するための条件や攪乱や遷移について学び、全体まとめとして、外来生物が地域の生態系や生活に与える影響を取り上げ、生態系と人間との関わりについて理解を深める。	
			生命科学入門		状況に合った適切な遺伝子を細胞や組織がどうセレクトして使うかといった、ホルモンや転写因子の働きに注目した内容を中心に学修する。具体的には、胎児の成長等を中心に学修する。また、この観点で重要になってくる、遺伝子のエピゲノミックなコントロールについても学ぶ。一般的な遺伝子やヒストンのメチル化等はもちろんのこと、遺伝子インプリンティング等の哺乳類特有の現象についても学修する。	
			自然環境学入門		人間と自然の関わり、循環型社会の意義、再生可能エネルギー、生物多様性の重要性、緑の多様な効用等について理解を深め、人間の生活空間の中で自然環境の持つ役割を理解する。また、身近な自然環境について観察する方法を身につけるとともに、自然環境をうまく活用する方法を理解する基礎を理解することを目的とする。まず、自然環境の概要を解説する。次に、自然環境の活用方法を確認する。さらに、今後の活用方法について検討をする。	
			地球環境論		講義前半では地球環境が形成されるまでの歴史を概括する。地球自身のダイナミズムによる地球環境の変化と生命活動が原因となった地球環境の変化が重なり合って、現在の地球環境が、奇跡的に生まれたことを理解することが目的である。後半ではその地球環境の中で生まれた人類と文明が、地球のダイナミズムによりどう影響を受けるのか、あるいは地球環境に対しどんな変成作用を及ぼしているのかを考える。	
			自然地理学		地形・地質を中心に、自然地理学の基礎について学ぶ。中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の教員を目指す学生にとって必須の内容を中心に、歴史的な視点も含めつつ、自然災害との関連性についても理解を深める。また、地図帳を参照することで、空間認知度の向上を図ることも目的とする。自然地理学（地形学及び関連分野）の基本的情報・知識を備え、それを論理的に分析・表現できる汎用的技能を身につけることを目標に置く。	
	健康科学科目		看護学の世界		ケアの原理を基盤に、看護とは何かを学ぶ。「看護」とは、他者をケアすることであり、人を気づかう、配慮することを含めた他者に対する行為を意味する。看護は、対人関係を基盤にしているため、その人が経験している病むことの苦悩や、回復の喜びに、どれほど寄り添えるのが看護の質を左右する。本科目では、ケアすることの意味を基盤に、人が人をケアする「看護」について具体的な事例を用いながら探求する。	
			女性の生涯と健康		看護学から見た生涯を通じた、女性の心身の健康について学ぶ。女性のライフサイクルにおいて、大学生は性成熟の観点から節目の時代と言える。自分の心と身体の健康について関心を抱き、主体的に考え、行動できる力を養うため、現代女性の健康問題を取り上げ、学習と実践を通して自分の健康を自己管理できるようになることをねらいとする。	
			保健概論		小学校・中学校・高等学校で学んできた科目「保健」の知識を基に、身体と心の健康について科学的な知識と理解を深めることを目的としている。さらに、大学生として女性の健康についても理解し、自己の健康づくりに必要な内容を学び、地域住民の健康増進のために、地域社会の構成員としてどのような貢献ができるのか、考えることが求められる。	
			リハビリテーション入門		疾病構造（国民全体における病気や障害の種類や量的な存在の関係）が変化し高齢者人口が増加しているわが国においては、医療・福祉（介護）・健康増進等の幅広い分野でリハビリテーション医療の必要性が高まっている。リハビリテーションでは健康の維持や、各種疾患・障害に対応する個別の療法が実施されている。健康維持から、実際の医療機関で行われているリハビリテーションの内容を理解することを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養科目	健康科学科目	健康に生きる		医療や健康に関する基礎知識を理解し、健康的な身体とはどのような状態かを認識するとともに、病気や外傷によって健康が損なわれた場合や、身体に障害を伴うことになった場合にいかに健康的な状態にするかを考察する。健康を保持するための正しい知識を持つこと、健康の自己管理について理解すること、身近な病気について理解すること等を、講義を通じて身につける。	
			女性と運動		女性は、生物学的に男性とは異なる構造・機能を持っている。女性は、妊娠時の姿勢の変化やそれに伴う骨盤痛、閉経後の尿失禁、女性ホルモン減少による骨粗しょう症等、ライフステージを通して運動や活動に関わる多くの身体的変化を経験する。このような女性特有のライフイベントや女性特有の問題に対し、運動による治療介入を学び、女性と運動の重要性を理解する。	
			女性のための栄養学		食事や栄養学的な観点から健康的な一生を送るために必要な知識を修得する。また、女性に起こりうる疾病や食事、栄養に関する課題について、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期と、女性が直面するライフステージ別に問題と改善策を考察し、基礎的な知識を修得するとともに、実際の日常生活においても活用することを目指す。	
	総合科目	女性とジェンダー科目	ジェンダー論入門		人間が生きる社会とは何かという視点から、「あたりまえ」「よきもの」とされているジェンダーを再考する。身近な問題としての恋愛や結婚、家族、教育、労働等現代社会で生きる上でのさまざまな場面や切り口からジェンダーについて学び、「自分とは異なる価値観、生き方の他者をいかに尊重するか」という問いを考察する。また、社会の「当たり前」の疑念を「疑う」という視点を持ち、自分なりの考察を行うことを目指す。	
			女性と家族		「家族のあり方」を軸に、「あたりまえ」とされる現実が、なぜ存在しているのか（歴史や社会構造）、また、どのような形で存在しているのか（社会制度）について学ぶ。さらに、それらの「社会と家族の仕組みについて知る作業」を通じて、他者への想像力を育み、多様な個人のライフスタイルを尊重した家族の可能性について、ジェンダー、社会制度等をキーワードに、さまざまな事例を見ながら考察する。	
			女子学		近年急速に広がってきた新しい「女子」という言葉に注目し、その言葉の背後にある、女性の新しいライフスタイルを明らかにすることを目的とする。具体的には、ファッションや写真、マンガ・アニメ、ファン活動等の女性の趣味的な領域を対象とし、そこでの女性の（男性と比較した場合の）新しい行動や思考の様式を明らかにする。「新しい女性のライフスタイル」を学ぶことによって、従来の女性像を相対化し、より自由に自分のライフスタイルを考えることができるようになることを目指す。	
			女性の歴史		主に近現代の女性の置かれた歴史的・社会的状況について学び、女性として生きることがいかなる意味をはらむものであったのか、深く知ることをねらいとする。具体的には、女性と政治、生殖や身体をめぐる歴史、女性と教育をめぐる歴史等のさまざまな事例を確認する。また、今日の女性の置かれた社会に思いをめぐらすことができるようになることが、授業のねらいである。	
			女性とコミュニケーション		家庭、職場、友人関係において心身ともに健康でより充実した学生生活、社会生活を送っていくために、日常生活で出会うさまざまなコミュニケーション上の問題や課題に「自分で」「創造的」「効果的」に対処できるよう、必要な知識やコミュニケーションスキルの修得、向上を目指す。また、日常生活にも応用できるようなスキルトレーニングを体験することで、自分の立場やその時々状況に応じた適切な自己表現ができるようになることを目指す。	
			国際社会とジェンダー		グローバル化の中で変化するジェンダーをめぐる課題と困難を、歴史的、地理的、社会的視点から明らかにする。西欧近代以降の人権に関わる思想と実践における女性の不在について知り、女性の権利獲得運動の歴史を確認しLGBTQの運動へと展開していった流れを、ジェンダーをめぐる議論とともに理解する。また、ジェンダー主流化の中で自身の日常と未来について考える姿勢を身につける。	
			女性と社会・仕事		女性を取り巻く労働問題の歴史的背景を学び、現代社会において女性、特に若い女性が抱える働き方や生活に関する問題を、日本型雇用や労働政策や社会保障と関連させながら考える。また、現代社会で生活する女性の実態を、政府統計、書籍、新聞記事等から情報を得、どのような働き方や暮らしを望むのか、社会をどう変えていきたいかを主体的に考察し、現状の問題点についても検討する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	総合科目	女性とジェンダー科目	女性と身体		社会におけるあらゆる経験の媒体となる「身体」について、特に女性に焦点を当てて、さまざまな問題を通して考察し、身体が社会・文化的な要因によって形作られていることを理解する。また、女性が現代のライフコースにおいて直面する身体に関わるさまざまな社会・文化的な問題及び身体をめぐる現代的な課題について知り、多様性を尊重する態度を身につける。	
			女性のための法律		遭遇する可能性のあるさまざまな問題を取り上げ、法律・制度及び社会の実情がどのようにになっているかに関する基礎知識を身につけることにより、将来問題に直面した際、どのような権利が侵害されているのか、対処する解決方法があるのか、誰に相談すべきか、どう行動すべきか等を自ら考え問題に対処できる能力を身につける。	
	国際理解科目		ヨーロッパの文化		多くの言語と文化を包摂するヨーロッパを概観し、ヨーロッパの多様な世界観や価値観を学ぶ。ヨーロッパ各地域の共同体や社会に共有される人々の暮らしに根ざした知の堆積としての文化と言語に関する基本的な事項を把握する。民族・言語・文化の異なる人々と相互にメッセージを交わす発信力と理解力を養い、異文化交流の鍵となる基礎的な異文化間リテラシーを修得する。	
			アジアの文化		東南アジア地域を対象として民族、言語、国民国家、宗教をキーワードに西欧との関係や開発、グローバル化、ナショナリズム等について学ぶ。言語、民族、国家、宗教のモザイク状況が成立してきた歴史的過程から東南アジア地域の概観を理解する。タイ国の少数民族に焦点を当て、その周縁の視点から、民族のアイデンティティ形成や国家の森林保護政策、世界宗教であるキリスト教への改宗、難民等現在東南アジアで生起する諸問題や地域社会の変容について考える力を身につける。	
			現代ヨーロッパ事情		EU・Brexitの概要、移民問題、女性活躍、地球環境問題への取り組み等についてのヨーロッパの現状や課題について、具体的な事例や視覚資料から理解を深める。個別国では、特にイギリス、フランス、ドイツに焦点を当てつつ、また、ロシア、トルコ、中東等の周辺国・地域を含めた実情についても考察を行う。特に、ヨーロッパで先進的に進行する地球温暖化対応や多文化共生等について考察・分析し、直面する課題の解決策を考案する構想力を身につける。	
			現代アジア事情		日本と地理的にも近く古くから交流が盛んなアジア地域の歴史、現状について、日本との関係を念頭に理解する。中国やインド等が経済大国として浮上し、国際社会における存在感を増すことにより、国際情勢にどのような影響を及ぼすのかを考察する。文化、歴史、民族、宗教等アジアの多様性について理解を深めるとともに、それぞれの国・地域と日本との関係を把握し、政治体制の違いや現在の国際情勢の中でどのような課題を抱えているのかを理解する。	
			グローバル社会論		グローバル化する社会と環境との関係を、マクロな政治経済の動きを踏まえて理解することが目的である。地球環境問題の中でも、グローバルな社会の動きとの関連から、森林等自然環境の破壊と保全について検討する。国際的な自然環境保護のための枠組みや取り決めをめぐっての利害関係を整理し、一見、環境を良好に保つと思われる制度・政策が、実は有害ですらあり得ることを明らかにする。	
			海外学習マネジメント		留学やインターンシップ、NP0での活動、ボランティア等、多様化しつつある大学生としての海外での学びに関するマネジメントについて総合的に学修する。将来のキャリアに結びつけるための目標課題設定とその評価等、学修のPDCA管理とフィードバックに加え、渡航中の安全危機管理及び心身の管理について、基礎的な知識、情報収集の方法、実際の対処等について実践的に学修する。	
			海外演習A		東アジア圏（韓国、インドネシア等）の大学付属の語学学校等で、語学や文化を学ぶ1～2週間の短期留学プログラムである。グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができるプログラムとなっている。	
			海外演習B		英語圏（カナダ、イギリス、アイルランド等）及び東アジア圏（中国、台湾、フィリピン等）の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ3～4週間の短期留学プログラムである。グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができるプログラムとなっている。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	総合科目	国際理解科目	海外演習C		英語圏（アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等）の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ5～6週間の中期留学プログラムである。グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができるプログラムとなっている。	
			海外演習D		東アジア圏（韓国、台湾等）の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ5～6週間の中期留学プログラムである。グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができるプログラムとなっている。	
			海外演習E		英語圏（アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等）の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ7～8週間の中期留学プログラムである。グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができるプログラムとなっている。	
			海外演習F		東アジア圏（韓国、台湾等）の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ7～8週間の中期留学プログラムである。グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができるプログラムとなっている。	
	芸術科目		造形芸術(絵画)		絵画を成立させている主な要素(テーマ、構図、形、配色)について、さまざまな絵画作品の鑑賞等を通じて学び、意図、オリジナリティー、背景を知ることによって名画の秘密を理解するとともに、作品の持つ魅力、絵画芸術への理解を深める。また、実技を通して、デッサンの基本、配色の理解や効果を学び、基礎造形力を養うことを目指す。	
			造形芸術(彫刻)		さまざまな彫刻作品の鑑賞を通じて、彫刻の名作をひも解き、彫刻を成り立たせている骨格、量塊や空間意識、技法等について考察し、作品の持つ魅力、立体芸術への理解を深め、基本的な美術のセオリーに関する知識を身につける。また、意図や構造、時代による変遷等を理解し、デッサンと小立体の制作を通して基礎造形力を養うことを目指す。	
			音楽の基礎		音楽の基礎的な知識を深め、かつ能力を高めることにより、より音楽を楽しむことができるようになることを目的とする。西欧型の一般的な音楽の基礎知識（楽典・音楽理論、音、音程、音階、リズム、調、和音、コード・ネーム等）を理解する。また、譜例と音楽史と関連づけて理解を深める。	
			合唱音楽		合唱において歌を歌うことにより自己表現の大切さを理解する。基本的な発声、楽譜製本等について学ぶ。また、合唱指導に必要な指揮法、発声法、さまざまな言語の発語指導を経験し、演奏者（合唱団員）との関係性についての知識を身につける。	
			音楽鑑賞A		世界の諸地域で生み出され歴史に根ざした音楽、ポピュラー音楽、そして芸術音楽を鑑賞し、その内容を考察する。その音文化を生み出し、受容する人間の音楽行動を見つめ直すことで、音楽そのもののみならず、音楽を育む文化について知識を深め、理解することを目的とする。	
			音楽鑑賞B		現在私たちはさまざまなメディアを通して、多様な世界の諸民族の音楽、ポピュラー音楽、芸術音楽等の音楽・音文化を体験、受容している。本講義では、それらを鑑賞し、音楽文化の歴史的・社会的意味について知識を深め、また私たちを取り巻く現代の多様な音楽状況を分析し、理解することを目的とする。	
			オルガン音楽(構造)		パイプオルガンの基本構造と発音原理を理解することを通じて、オルガン音楽に親しみをもち、音楽文化への理解を深めることを目的とする。また、学内のオルガン見学及び鑑賞の機会を設け、本学のパイプオルガンの楽器としての価値や存在意義を知り、音楽のもたらす力を感じ取ることができる力を養う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	総合科目	芸術科目	オルガン音楽(器楽)		最も長い歴史を持つ楽器の一つ、パイプオルガンとその音楽の発展を、楽曲鑑賞を行いつつとり、政治経済の発展や音楽以外の芸術との関わりにも留意しつつ、西洋音楽史の流れの中でのオルガン音楽の変遷を知って、オルガンとオルガン音楽に親しみを持つことを目的とする。	
			オルガン音楽演習		パイプオルガンとはどのような楽器かを知り、手鍵盤と足鍵盤を使ってその基本的な操作と演奏を学ぶ。また、パイプオルガンとピアノや電子オルガン等他の楽器との違いを知り、鑑賞と学びを通じてパイプオルガンとその音楽に親しみを持てるようになることを目的とする。さらに小発表会での演奏曲を選び、その課題について技術的、音楽的なポイントを理解し、表現する技術を身につける。	
			日本の文化(茶道)		茶の湯の歴史を概観することにより、日本の文化の特徴を考える。茶の湯は、中国の文化を受容した上で、日本独自の変容を遂げた芸術である。茶の湯の歴史を学ぶことを通じて、芸道について、さらに美術・工芸・建築についても、総合的に考える。また、茶の湯と日本の文化を通して、中国の文化を受容した日本の文化を学び、日本の芸道についての知識を身につけ、その思想を理解することを目標とする。	
			日本の文化(華道)		日本の生け花を通史的に概観することにより、日本の文化の特徴を考える。中国の文化をはじめとする外来文化を、受容し変容させるという意味において、生け花は、日本の芸術の典型例の一つである。歴史を振り返り、さらには植物の美の普遍性、飾る空間等についても考える。また、生け花の実践を通して中国の文化をはじめとする外来文化を受容した日本の文化を学び、日本の芸術の知識を身につけることを目標とする。	
	キャリア支援科目		ホスピタリティ入門		ホスピタリティを、多角的に考察する。まずは「ホスピタリティ」の語源の意味から知ることで「おもてなし・思いやり」の理解度を高め、日常生活の中で行動化できる人間になる。また、将来、企業で仕事に携わる中で、一人のホスピタリティがどれだけ企業の利益を生むかを学ぶ。さらに、ホスピタリティを学び、コミュニケーション能力の向上も目指す。	
			キャリアデザインⅠ		卒業後の進路選択に資する力を身につけるため、協同学習を通して自分のキャリアを形成するために必要なコミュニケーション能力や課題解決思考について学ぶ。また、社会で活躍するための基礎になる、社会人基礎力を養いながら、将来の進路設計に必要な「自己理解」「社会理解」を深める。社会人に求められるコミュニケーションスキルを身につける。	
			キャリアデザインⅡ		大学卒業後の進路を考えるため、就職活動に関する知識と実践技法を学ぶ。前半は「職業観の醸成」「職業選択行動のための情報収集と整理の方法」等をテーマに選択肢の発見を目的とする。中盤から後半では「自己理解」「伝達力の向上」をテーマにしながら「企業の選考活動・学生の就職活動に関する知識と実践技法の修得すること」を目的とする。	
			キャリアのための日本語		日本語表現に関する幅広い知識を身につけ、就職活動や社会生活で状況に応じた表現ができることをねらいとする。大学生生活や就職活動・社会生活で使える実用的な文章表現や、口頭表現を、プレゼンテーション、ディスカッション等を通じて、その形式内容と表現方法の両面から実践的に身につけることを目的とする。	
			キャリアのための数学（ベーシック）		仕事でもプライベートでも、社会で生活していくためには、数学的な考え方を身につけておくことが必要となるため、数学に苦手意識を持つ人を対象として、数学的思考の基礎となる計算や割合の考え方、公式の活用方法等を学び演習を行う。分数や小数、割合、方程式、場合の数と確率の計算力に加え、損益算、確立等、社会で求められている数的能力を活用し、基本的な図表の読み取りの技能を修得する。	
			キャリアのための数学（スタンダード）		ビジネスで必要とされる数学的思考の基礎となる数的処理を中心に演習を行う。数学に苦手意識を持つ人や基礎固めをしたい人を対象としている。「キャリアのための数学（ベーシック）」で学ぶ各種の計算ができることを前提に、推論等の応用的な問題を速く正確に解けるようになることを目指す。	
			キャリアのための時事問題		戦後から現在にかけての国際関係、現在の日本の政治・経済・社会状況、近年の国際社会の変化と課題等への理解を深め、各人が特に関心を持った事象を深掘りしてその背景や影響等を探究する。また、平時より新聞・テレビ等を通じて関連する時事問題にアンテナを張る習性を身につける。日本及び世界各地で生じている政治・経済・社会事象を理解した上で、各事象の問題点や影響を考察する力を修得するとともに、その課題解決方法を考案する構想力を身につける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	言語・情報科目	言語科目	英語会話Ⅰ		日常的な場面で自信を持って表現できるための基本的なスキルと語彙を学び、英語でコミュニケーションが図れるようになることを目標とする。特に実用的、日常的な場面で使うことのできる、リスニング、スピーキング等のスキル修得を目指す。自分のことや話し相手以外の第三者についての質問や受け答え等、さまざまな場面で、より具体的に実用性の高い英会話を学習する。	
			英語会話Ⅱ		英語会話Ⅰに引き続き、日常的な場面で自信を持って表現できるための基本的なスキルと語彙を学び、英語でコミュニケーションが図れるようになることを目標とする。特に実用的、日常的な場面で使うことのできる、リスニング、スピーキング等のスキル修得を目指す。さらに、英語で自分自身及び考えについても適切に表現できることを目指す。	
			英語Ⅰ		リーディング活動を主に行いながら、基礎的な英語構文力とリーディングスキルを養成することを目的とする。音読の仕方、辞書の使い方等を学び、基本的な学習のスキルを身につけて、予習・復習の際に活用できるようになることを目指すとともに、語彙力強化を図る。また、基本的な英文を、文末から訳したり和訳文を書き取することにより、文頭から意味のかたまりを意識し、文の構造と意味が正確に読み取れるようにする。	
			英語Ⅱ		英語Ⅰに引き続き、リーディング活動を主に行いながら、基礎的な英語構文力とリーディングスキルを養成することを目的とする。音読の仕方、辞書の使い方等を学び、基本的な学習のスキルを身につけて、予習・復習の際に活用できるようになることを目指す。また、パンフレット、説明書、ニュース等日常的な英文の情報を初見で理解できる語彙力とスキルを身につける。	
			韓国語Ⅰ		韓国語の文字、発音を修得し、簡単な日常的表現と基礎文法を学び、また、韓国の文化や韓国事情について知り、理解できるようになることを目的とする。読み書きの能力を身につける。簡単な会話ができ平易な文章が書ける。韓国語学習と韓国文化や韓国事情を学修することにより、国際的視野を身につける。	
			韓国語Ⅱ		韓国語の基礎文法を理解する。特に用言の活用に重点をおいて学修する。また韓国の文化や韓国事情について知り、理解できるようになることを目的とする。簡単な会話や日常的な表現を身につける。韓国語学習と韓国文化や韓国事情を学習することにより、国際的視野を身につける。	
			中国語Ⅰ		中国語の特徴、ピンイン、声調等を理解した上で発音を修得し、簡単な挨拶等が話せるようになることを目的とする。また、ピンインを見て正確な発音ができ、SVO構文の簡単なセンテンスが使えるようになることを目指す。	
			中国語Ⅱ		中国語の基本的な語法を修得し、語彙を増やす。補語を除いた基本的な文法について理解する。また、簡単な日常的表現と基本文法を学び、ピンイン・声調を正しく理解した上で、中国語検定準4級が受験できるレベルを目指す。	
			マレー・インドネシア語Ⅰ		インドネシア語文化圏の背景を学びながら、挨拶やお礼の表現等、初歩的なコミュニケーションがアクティブに行えるようになることを目標とする。インドネシア語の発音と初歩的な文法事項を理解し、挨拶、お礼の表現等、初歩的な会話が行えることを目指す。また、インドネシア語文化圏の概略を学修する。	
			マレー・インドネシア語Ⅱ		インドネシア語の初歩的な文法事項を修得し、初歩的な会話聞き取り、理解でき、話せるようになることを目標とする。インドネシア語技能検定E級レベルの力をつけ、さらに次のD級レベルをも視野に入れて学修する。インドネシア語の初歩的な文法事項を修得し、リスニングや会話の練習を通じ、初歩的な会話聞き取り、理解でき、話せるようになることを目指す。	
		情報科目	情報とコンピュータⅠ		各自のPCの設定やアプリケーションのインストール等、PCを運用する能力を身につける。具体的には、大学のコンピュータシステムの利用方法を理解した上で、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成に使用するWord・Excel・PowerPointの基本的な操作等、大学での学習に必要なコンピュータスキルを身につける。	
			情報とコンピュータⅡ		社会におけるAIやデータの関わりについて過去から現在までの流れを理解し、これからのAI時代に求められる基礎力を身につける。具体的には、情報とコンピュータⅠで修得したコンピュータスキルを前提に、統計の基礎的な考えを修得し、コンピュータを用いてデータを分析、表現し、自身の考えを述べる力をつける。また、社会で求められる情報活用の基礎力を体系化し、どのようにすれば効果的に情報を活用できるか学修する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	言語・情報科目	情報科目	コンピュータと社会		アクティビティや制作等のアウトプット活動を通して、自身の考えや意見をまとめ、コンピュータが社会にどのような変化をもたらしてきたのかを振り返り、より豊かで公正で快適な社会の在り方について考察する。また、情報セキュリティに関連する現代社会の諸問題から、自身や周囲の安全を守るために必要な知識を学び、社会の課題の解決につなげる方法についても考察する。	
			情報メディア実習		社会に出てから即戦力となるように、デザインを扱う業務において必須のアプリケーションである、写真関係ソフトやイラスト関係ソフト等のグラフィック関係のソフトについて、グラフィックソフト初心者が、Adobe社のIllustrator及びPhotoshopを使用して、ドローイングやフォトレタッチの基礎を理解することを目的とする。	
			ビジネス情報実習		情報化社会の発展により、私たちの暮らしの中には多くのデータがあふれている。そのデータを適切な方法で分析するためには、統計学の知識が必要となる。統計学の基本的な考え方を学び、Excelを使用して統計分析ができるようになることを目的とする。さまざまな例題に取り組むことにより、情報のデータの扱い方を身につけ、統計分析のスキルを修得する。	
	情報保障科目	情報保障科目	手話コミュニケーション		耳の仕組みを学ぶことを通して聴覚障害を理解し、音声言語と手話言語の違いを理解する。また、聴覚障害者の生活やろう教育等の経験を通して、耳が聞こえる人の考え方と聞こえない人の考え方（ろう文化）の違いを知り、真のバリアフリーについて考える。さらに、手話検定5級レベルの基本的な手話の修得と会話場面を想定した演習を行い、検定取得を目指す。	
			ノートテイクの方法		「ノートテイク」について知り、聴覚障害者のコミュニケーションを支援できるようになることを目的とする。コミュニケーションにおける伝達の意味を確認し、書いて伝える技術の基本を学ぶ。また、聴覚障害者への支援方法の一つであるノートテイクについて、実習を通じて、聴解力、要約力の向上を目指す。具体的には、その場で「聴いてまとめて書いて伝える」の基本、対人援助や現場対応力の初歩を学ぶ。	
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科目	生涯スポーツの科学		現代におけるスポーツの新たな価値を多角的に捉え、さまざまな楽しみ方や関わり方があることを学ぶ。また、健康でアクティブな人生を送るための運動・スポーツの必要性を考察し、スポーツライフの拡大に向けたプロモーションの可能性について探求する。さらに、スポーツを取り巻くさまざまな出来事・環境・現象を通じて、問題点や課題について考察する。	
			トレーニングの科学		健康・体力づくりや身体機能の向上を目的としたトレーニングについての知識を身につけることを目的とする。健康に関連のある身体の形態や機能に関する知識とそれらを測定する方法を修得し、体力トレーニングや技術トレーニングについての理解を深めるとともに、自分自身の身体や健康づくりにも関心を持ち、実生活において健康や体力づくりに応用できるトレーニングプログラムを立てる。	
			健康・スポーツ科学実習A		健康で豊かな生活を送るために、生涯にわたって定期的に運動・スポーツを実践する必要性が叫ばれている。スポーツ種目の特性（ルールやマナーも含む）を理解し、楽しみながら体力の維持・増進を図るとともに自主性と協調性を養い、生涯にわたって運動・スポーツを継続できる能力や態度を身につけることを目指す。（卓球）	
			健康・スポーツ科学実習B		健康で豊かな生活を送るために、生涯にわたって定期的に運動・スポーツを実践する必要性が叫ばれている。スポーツ種目の特性（ルールやマナーも含む）を理解し、楽しみながら体力の維持・増進を図るとともに自主性と協調性を養い、生涯にわたって運動・スポーツを継続できる能力や態度を身につけることを目指す。（バレーボール）	
			健康・スポーツ科学実習C		健康で豊かな生活を送るために、生涯にわたって定期的に運動・スポーツを実践する必要性が叫ばれている。スポーツ種目の特性（ルールやマナーも含む）を理解し、楽しみながら体力の維持・増進を図るとともに自主性と協調性を養い、生涯にわたって運動・スポーツを継続できる能力や態度を身につけることを目指す。（ニュースポーツ）	
			健康・スポーツ科学実習D		健康で豊かな生活を送るために、生涯にわたって定期的に運動・スポーツを実践する必要性が叫ばれている。スポーツ種目の特性（ルールやマナーも含む）を理解し、楽しみながら体力の維持・増進を図るとともに自主性と協調性を養い、生涯にわたって運動・スポーツを継続できる能力や態度を身につけることを目指す。（バドミントン）	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	必修科目	心理学概論	○	科学としての心理学が成立してきた経緯、現代心理学の歴史とその発展について学び、心理学がどのような学問であるのかを理解する。その上で、人の心の基本的な仕組み及び働き、心理学の基礎的な研究分野についてどのような研究が行われているのかを学ぶ。また、発達心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、社会心理学、学習心理学、知覚・認知心理学等の各領域の代表的な理論や専門用語、さまざまな応用分野についても学び、学問としての心理学の全体像を理解する。	
		心理学統計法（基礎）	○	心理学で用いられる統計手法の基礎について学び、統計に関する基礎的な知識を身につけ、統計ソフトを用いて初歩的な分析の実施と理解ができるようになることを目的とする。具体的には、データ分析の基礎として、記述統計、推測統計を取り上げる。代表値（平均値や中央値、最頻値等）や散布度（度数分布、分散及び標準偏差）によってデータの特徴を記述し、信頼区間、t検定、カイ二乗検定等の統計的検定を行うことができるようになることを目指す。	
		心理学実験	○	心理学の研究で必要とされる実験の方法に関する実習を行う。基礎的な心理学実験を行い、データを整理し、レポート作成を行い、実験の計画立案を実践する。また、統計に関する基礎的な知識を用いたデータ分析について理解を深める。実験テーマは、概念学習（人工概念の形成）、行動形成法（動物心理学実験の体験）、囚人のジレンマ（相互依存状況における行動の選択）、短期記憶、ストループ（視覚システムと言語システム間の干渉）、心的回転（イメージ操作）等を取り扱う。	
		心理学研究法	○	心の働きや行動の仕組みを科学的に明らかにするために必要な研究方法について学ぶ。実験研究例を通して、実験法のロジックを理解し、自らの手で研究できる力を会得することを目指す。具体的には、心理学における実験法の位置づけ、歴史、実験デザイン、実験参加者の割り当て、独立変数の操作、従属変数の測定方法、剰余変数の統制方法等を学ぶ。さらに、新たなリサーチクエストを検討するための研究計画の立て方、実験後の分析方法についても学習する。	
		心理調査概論	○	心の働きや行動の仕組みを明らかにするための、心理調査方法の基礎的な知識とスキルを学ぶ。心理調査方法の基礎的な知識及び特徴を理解し、目的に適した調査方法を選択できること、調査データを適切に分析できることを目指す。心理統計の基礎として、基本原理、サンプリング、標本からの測定、統計的検定の考え方、仮説の検定、統計使用上の注意等を学ぶ。さらに、調査、実験、観察、面接法、尺度構成、検査等の知識を身につける。	
		心理学基礎セミナーⅠ	○	大学で心理学を学ぶための必要な基礎的な能力の獲得を目標としている。大学生活に必要な学習スタイルを身につけ、自分の考えを論理的に述べることができるリテラシーの獲得を目標とする。このため、ノートテイク、テキスト講読、ロジカルライティング、グループワーク等の心理学の学びに必要なトレーニングを行う。また、グループワーク等を通し、自分や他人の意見を分かりやすくまとめ表現・発表することができるコミュニケーション力を身につける。	
		心理学基礎セミナーⅡ	○	心理学基礎セミナーⅠに引き続き、心理学を学ぶために必要な基礎的な能力の獲得を目標とする。専門書の輪読、文献資料の収集・整理、調査や実験等のフィールド演習を行うことで、心理学的なアプローチの方法、プレゼンテーションを行うスキル、レポートの書き方等を身につける。また、人の心に関するさまざまな事象に興味を持ち、心理学的な知見から問題に対する理解を深めるとともに、他者（クラスメイトや教員）と適切なコミュニケーションをとるスキルや、研究活動や学習に必要な情報リテラシー等に必要なスキルを身につける。	
		心理学応用セミナーⅠ	○	心理学基礎セミナーで獲得した情報リテラシーやライティングスキル等の基礎的なスキルの向上とともに、課題や問題に取り組むための心理学の基礎的な研究方法について学ぶ。具体的には、調査や観察、インタビュー等の演習課題を行う。また、これらの課題にはグループで取り組むことで、協働して課題に取り組む姿勢やコミュニケーションスキルの向上を目指す。また、グループワークを通して自身のストロングポイントや課題について考え、これからの学びの目標を確認する。	
		心理学応用セミナーⅡ	○	心理学応用セミナーⅡでは、Ⅰでの学びを発展させる形で、少人数グループで課題の設定、その解決のために調査や実験等を行うプロジェクト型の実習を行う。3年次から始める心理学プロジェクト実践に向けて、問題解決能力や研究実践力を高めることも目的である。具体的には身近な心理的問題をテーマとして取り上げて、グループディスカッション等を通して課題を定式化し、それに取り組み、どのような成果が得られたのかを発表し、振り返りを行う。	
		心理学プロジェクト実践Ⅰ	○	心理学プロジェクト実践は、3年次にⅠ・Ⅱ、4年次にⅢ・Ⅳを開講し、少人数によるゼミ形式で行う授業である。これまでの授業で学習してきた心理学の知識を社会や日常生活で活かすための実践的な能力の獲得を目指す。具体的には、プロジェクト型研究を通して、課題の設定、調査や実験等実践、データ分析、プレゼンテーション等を行う。心理学プロジェクト実践Ⅰでは、担当教員の専門領域に関する論文や実践報告等を題材に、ディスカッション、グループワーク等を行い、リサーチ・リテラシーやコミュニケーションスキルの向上等を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	必修科目	心理学プロジェクト実践Ⅱ	○	心理学プロジェクト実践は、3年次にⅠ・Ⅱ、4年次にⅢ・Ⅳを開講し、少人数によるゼミ形式で行う授業である。これまでの授業で学習してきた心理学の知識を社会や日常生活で活かすための実践的な能力の獲得を目指す。具体的には、プロジェクト型研究を通して、課題の設定、調査や実験等実践、データ分析、プレゼンテーション等を行う。心理学プロジェクト実践Ⅱでは、Ⅰに引き続き担当教員の専門領域に関する論文や実践報告等を題材に、ディスカッションやグループワークを行うとともに、心理学で得られた知見と社会との関連や心理学をどのように活かすことができるのかを考える。	
		心理学プロジェクト実践Ⅲ	○	心理学プロジェクト実践は、3年次にⅠ・Ⅱ、4年次にⅢ・Ⅳを開講し、少人数によるゼミ形式で行う授業である。これまでの授業で学習してきた心理学の知識を社会や日常生活で活かすための実践的な能力の獲得を目指す。具体的には、プロジェクト型研究を通して、課題の設定、調査や実験等実践、データ分析、プレゼンテーション等を行う。心理学プロジェクト実践Ⅲでは、プロジェクト型研究に取り組む。Ⅰ・Ⅱで学んだことを活かし、心理学の研究技法を実践的な課題解決に活かす方法を考え、実行する。	
		心理学プロジェクト実践Ⅳ	○	心理学プロジェクト実践は、3年次にⅠ・Ⅱ、4年次にⅢ・Ⅳを開講し、少人数によるゼミ形式で行う授業である。これまでの授業で学習してきた心理学の知識を社会や日常生活で活かすための実践的な能力の獲得を目指す。具体的には、プロジェクト型研究を通して、課題の設定、調査や実験等実践、データ分析、プレゼンテーション等を行う。心理学プロジェクト実践Ⅳでは、Ⅲに引き続き、プロジェクト型研究に取り組む。研究成果を論文・報告書としてまとめ、プレゼンテーションを行う。	
	選択必修科目	心理学統計法（応用）		心理学統計法（基礎）に引き続き、心理学で用いられる統計手法について学ぶ。具体的には、相関分析、分散分析を取り上げる。実際に、さまざまなデータを用いて分析を行い、実験や調査等実践的な場面で適切なデータ分析を行う力、結果を読み取る力を身につける。また、統計ソフトの操作を学び、独力でデータ入力から適切な分析方法の選択、分析結果の読み取りまで行うことを目標とし、心理学の研究で用いるさまざまな分析方法への理解を深める。	
		心理学統計法（発展）		心理学統計法（発展）では多変量解析等、複雑な統計的分析法について学ぶ。具体的には、相関分析（単相関分析、偏相関分析）、回帰分析（単回帰分析、重回帰分析）、主成分分析、因子分析（探索的因子分析、確証的因子分析）、構造方程式モデリング等について学ぶ。各分析についての基本的な知識を学習するとともに、実際に統計ソフトを用いて分析を行い、適切な分析を行う力、出力結果を読み取る力、論文及びレポートにまとめる力を身につける。	
	公認心理師プログラム科目群	公認心理師の職責		公認心理師として心理的な支援を行う際にどのような態度・技能・知識が必要かを概説すると同時に、心の専門家としての自己に対する洞察を深めることを目的とする。具体的には、公認心理師の役割、公認心理師が援助を行う主な分野における関連制度、法的義務及び倫理、公認心理師が行う具体的な業務内容等を扱い、公認心理師資格への理解を深める。また、援助職に就くために必要な自己理解に取り組み、課題を自覚するとともに、実習に出るために必要なマナーや心構えを修得することを目的とする。	
		臨床心理学概論		臨床心理学の基礎について広く概観し、臨床心理学の歴史やさまざまな理論や専門用語について理解することを目的とする。また、公認心理師や臨床心理士といった心理学領域で活躍する心理職の業務等、臨床心理学的援助の実践について学ぶ。具体的には、精神分析、分析心理学、行動主義心理学、人間性心理学、乳幼児・児童期・青年期等の精神発達、発達障害等を取り上げ、心理臨床の実際を学ぶとともに、心の専門家である心理職についての理解を深める。	
		知覚・認知心理学		目で見える世界や記憶等、人の知覚や認知の仕組みを科学的に理解するための基礎的な仕組みを理解する。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、人の認知・思考等の機序及びその障害等のテーマから、知覚と認知の基礎を学び、論理的な考察の習慣を身につける。また、科学的な背景に基づいた意見を持ち、自発的に発表することを心がけ、身の回りの出来事を講義で学んだことを生かし、論理的に分析、説明できるようになることを目標とする。	
		教育・学校心理学		教育と深い関係のある学習・認知・発達研究を取り上げ、教育に関する心理学的事実や法則について学ぶ。また、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援法等、実際の活用について学ぶ。具体的には、知能の発達、人格の発達、学習理論、動機づけ、記憶等の発達、学習・認知に関する基礎的な知識及び理論に加えて、学級集団、授業方法、教育評価の方法等を学び、現代の教育に関する問題を考察する。	
		学習・言語心理学		心理学において学習とは「経験によって生じる比較的永続的な行動の変化」である。刺激間の関係性に関する学習である古典的条件づけ、自身の反応と環境の関係性に関する学習であるオペラント条件づけ、他者の行動に基づいて自らの行動を変えていく社会的学習等について学び、学習の基礎を理解することを目指す。併せて、言語の獲得機序を紹介し、ヒトがどのように言語を獲得するかを理解することを目指すとともに、臨床・教育といった応用場面において学習・言語に関する知見がどのように用いられているかを取り上げる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	選択必修科目	公認心理師プログラム科目群	障害者・障害児心理学		身体障害、知的障害及び精神障害の概要、及び、その他の障害の概要を理解する。また、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援、障害種別に応じた教育や福祉・医療制度、就労の現状等についても理解し、身近にある障害支援に目を向け、その目的を理解し、現状における不十分な点、改善点等を考える力を養成する。そのため、グループワークを通して、身近な障害児者支援その支援の不十分な点・改善点に関する情報収集をし、収集した情報をまとめて発表する。	
			健康・医療心理学		人の心の健康、医療・保健分野における諸問題を取り上げ、①ストレスと心身の疾病との関係、②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援、④災害時等に必要心理に関する支援について学ぶ。また、学んだ知識や技術を基に、将来、医療・保健分野等の現場で多職種と連携しながら心理職として活動することを念頭に、被援助者者にとって何が最適な援助となるのかを考え、実際に活用できることを目標とする。	
			関係行政論		公認心理師として活動する上で必要となる基本的な施策や法律、制度に関する知識を修得することを目的とする。心の支援に関する全体像を、法律や制度の観点から把握し、公認心理師の専門職としての役割や社会的使命を理解する。そのため、保健医療分野（医療全般、精神科医療、地域医療）、福祉分野（児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉）、教育分野、司法・犯罪分野（刑事、少年非行）、産業・労働分野等、さまざまな分野の事例に触れ、基本的な知識を身につける。	
			心理学的支援法		心理学的な支援における基礎的な理論・概念について学ぶ。具体的には、精神分析療法、力動的心理療法、クライエント中心療法、行動療法等の代表的な心理療法及びその技法の選択と効果、ならびにカウンセリングの理論や概念、訪問による支援や地域支援の意義について理解する。また、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、ブライバシーへの配慮、関係者に対する支援、心の健康教育等についての知識を身につけ理解を深める。	
			心理的アセスメント		心理的アセスメントとは、個人のパーソナリティや能力、心理状態等に関する情報を収集し、個人を評価（査定）することである。心理臨床の現場において、アセスメントは被支援者を理解し、援助の方法を考える上で欠かせない。心理臨床領域で行われるアセスメントについて、その目的、倫理、観点及び展望について学ぶ。また、具体的な方法（観察、面接、心理検査）を実践し、記録や報告の仕方を学びそれぞれの特徴を理解した上で、基礎的な知識及び技能を身につける。	
			神経・生理心理学		生理心理学（神経科学）の入門的な内容とともに、主に記憶や視知覚のトピックスを通して、生理心理学（神経科学）とはどういった学問領域かについての知識を身につける。特に、脳神経系の構造、ニューロン、シナプス伝達といった脳の機能、記憶のメカニズム、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害等（精神疾患、睡眠、意識）の概要について基礎的な知識を身につけ理解を深めるとともに、どのような支援が必要かを考察する。	
			司法・犯罪心理学		犯罪、非行行動について、基礎理論、犯罪統計、研究法等について知識を深めることで、社会の中で犯罪がどのように捉えられているかを概説する。犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。また、それらの基本的知識等を身につけた上で、犯罪の実体的真実、司法・犯罪分野における必要な支援について考察し、自らの言葉で説明できることを目標とする。	
			精神疾患とその治療		精神医学が対象とする病態で、特に女性に関係の深い精神障害についての知識を修得する。また、その上で、精神疾患各論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携についての理解を深める。具体的には、人格障害、不安障害、解離性障害、心身症、気分障害、統合失調症、薬物関連障害等を取り上げ、さらに薬物療法及び精神療法についての知識を身につける。	
			人体の構造と機能及び疾病		心身機能と身体構造を関連づけて正しく理解し、正常な状態が病気にによって障害された際に起こる疾病や障害について理解する。人体を構成する臓器系とその生理的働きを理解し、それらの病態（生活習慣病、感染症、がん、難病、精神疾患、先天性疾患等）について正しい知識を学ぶ。特に、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病に関する知識を身につけることで、心理職としての援助のあり方、医療機関との連携等についても考察する。	
			心理学のための英語		心理学分野の英語論文を理解するために必要となる基礎的な英文読解力と関連する英語・心理学の知識の修得を目的とする。英語で書かれた心理学分野の文献を題材にして、各自が主体的に英文読解に取り組むことで、心理学分野の専門用語や表現に慣れ、卒業研究や心理学系の大学院進学に必要な英文読解ができるようになることを目指す。また、英語論文で用いられる表現及び単語等から、科学論文の構成、作成及び公表方法についても理解を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	選択必修科目	公認心理師プログラム科目群	心理演習		公認心理師が心理支援を行うために必要な基本的な知識及び技能、態度の修得を目的とする。具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通して、心理支援に関する知識及び技能、態度について学ぶ。また、心理支援を要する者等との関わり、多職種との連携に必要なコミュニケーションスキルを修得し、事例検討を通して、心理に関する支援を要する者等について理解を深め、必要な支援計画を立てることを目標とする。	
			心理実習Ⅰ		公認心理師が活躍することが期待されている施設・機関において見学等による実習を行う。まず、授業及び事前指導を通して各分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）の特徴や公認心理師の業務について学び、さらに実際に実習を行う施設や機関についての予備知識や学外実習を行うための態度・倫理を身につける。その後の学外実習では、各施設での心理的支援の実践について主に見学等による実習を行う。学外実習後は、実習内容を記録にまとめ、事後指導及び実習報告会を通してより深い理解につなげる。	
			心理実習Ⅱ		公認心理師の職責、心理演習、心理実習Ⅰ等で学んだそれぞれの分野についての知識や実習を行うための態度、専門職としての倫理が、どのように実践されているかを学ぶ。まず、オリエンテーションを通して実習施設についての予備知識や学外実習を行うための態度・倫理を身につける。その後の学外実習では、見学のほか、スタッフの一員として要支援者に関わることで心理的支援の実践を行う。学外実習後は、実習内容を記録にまとめ、事後指導及び実習報告会を通してより深い理解につなげる。	
			心理実習Ⅲ		心理実習Ⅱに引き続き、学外実習を行う。まず、オリエンテーションを通して実習施設についての予備知識や学外実習を行うための態度・倫理を身につける。その後の学外実習では、スタッフの一員として要支援者に関わることで心理的支援の実践を行い、多職種連携を行うために必要となる知識やコミュニケーション能力、問題解決能力を養う。学外実習後は、実習内容を記録にまとめ、事後指導及び実習報告会を通してより深い理解につなげる。	
	キャリア・マネジメントプログラム科目群	キャリア・マネジメントプログラム科目群	キャリア・マネジメント入門		将来の職業生活やそれを含めた人生全般を豊かなものにするために、キャリアや組織に関する心理学の諸理論や研究知見について学ぶ。具体的には、キャリア心理学の諸理論を知ることにより、学生から社会人になるにあたってどのように職業を選択していくべきか、また就職後の人生で職業生活をどのように発展させていくべきかを考えられるようにする。さらにモチベーションやリーダーシップといった組織心理学における重要概念の心的機能を知ること、自律的にキャリアをマネジメントできるようになることを目指す。	
			社会・集団・家族心理学		社会に存在するさまざまな問題を心理学の観点から考えることをねらいとし、社会問題、集団問題、家族問題に対する心理学的アプローチについて学ぶ。具体的には、「対人関係、及び集団における人の意識や行動についての心の過程」（対人関係の心の過程）、「人の態度、及び行動」（態度、行動、感情）、「家族、集団、及び文化が個人に及ぼす影響」（家族、集団、文化の影響）の三つの視点から、社会問題、集団問題、家族問題に対する心理学的アプローチについて学ぶ。	
			消費者心理と広告		経済活動や消費行動に関連する心の働きや行動を理解するために、社会心理学や行動経済学等の心理学的な理論を学ぶ。具体的には広告の心理的効果、マーケティング・購買意欲・商品選択・意思決定等に関わる心理的メカニズム等について学習する。消費者の視点からだけでなく、サービスや製品を提供する側の視点から経済活動や消費行動を学ぶことで、ビジネス場面でどのように心理学を活かすことができるのかについて理解を深める。	
			産業・組織心理学		企業や公的機関等組織で働く人々の行動や心理的メカニズムを学び、個人と組織との最適な関係性を見出すことを目的とする。産業・組織心理学を学ぶことで、組織の一員として活動する際に、現場で生じる問題により効果的に対応できたり、問題を未然に防ぐことができたり等、職場や組織に貢献できるようになることを目指す。また、多様化する社会や働き方に柔軟に対応していけるよう、働く人や組織が抱える今日の課題、問題を未然に防ぐ方法等についても考察する。	
			心理プログラミング・AI演習		心理学の実験では、刺激の提示や反応の取得を正確に行うことができるプログラミングを用いることが一般的である。この授業では、自ら心理学実験を構築し、プログラミングを活用するスキルを身につけることを目的とする。また近年では、心理学においてもAIを用いたデータ分析が行われるようになった。そこで本授業では、心理学研究で得られるデータを、AIを活用し分析するスキルを身につけることを目的とする。さらに、これらのスキルは心理学にとどまらず、ビジネスの現場でも役立つと考えられる。従って、心理学実験の構築や心理学データの解析を通して、ビジネスの幅広い分野で役立つプログラミング・AI解析スキルを会得することを目指す。	
			グループ・ダイナミクス		集団間の葛藤と協調をシミュレートした「仮想世界ゲーム」を題材に、ゲームの中での出来事や体験を社会心理学的に分析・考察し、さらに、マクロな社会とミクロな個人が互いに影響を及ぼし合うプロセスについて社会心理学的に分析・考察できるようになることを目的とする。また、実際にゲームに参加することで、集団や社会における人の意識と行動への理解を深め、日々の生活の中にある社会心理的な現象について、興味・関心を持つことを目標とする。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻 科目	選択 必修 科目	ライ フ デ ザ イ ン プ ロ グ ラ ム 科 目 群	女性のためのリスクマネジメント		女性が被害者の立場になりやすい対人関係における暴力（デートDV、ストーカー、性的搾取、性被害、ハラスメント等）の実態や、そうした被害に伴う心理的・生物的・社会的影響とそれへの対処、及び加害側の心理等について学ぶ。また、金銭的なトラブル（契約に絡むトラブル、違法行為への巻き込まれ等）の実態や巻き込まれる心理メカニズム、相談先等基本的な対処について学び、より安全・安心な暮らしのための知識や相談スキルを身につける。	
			暮らしのなかの心理学		（概要）心理学が身近な問題とどのように関係しているのか、生活環境のなかでどのように役立てられているのか、社会的問題にどのようにアプローチしているのかを学ぶことを目的としている。具体的には、対人関係、失敗やストレス対処等の行動、睡眠や健康に関わる心理学のトピック等を取り上げる。（オムニバス方式／全13回） （5 山田 尚子／4回） 暮らしのなかの「失敗」を取り上げる。「失敗」とうまく付き合うことは、健康で幸せに生きていく上で重要である。日常生活にどのような失敗があるかを改めて意識し、その根底にある心理学的なメカニズムや、失敗への対処を学ぶ。 （8 松下 正輝／5回） 暮らしのなかの「睡眠」と「認知症」を取り上げる。慢性的に睡眠不足や不眠を抱えている人は多いが、心理学的なアプローチにより改善できることも少なくない。また、超高齢社会となっている日本において、加齢と密接に関連する認知症の問題は全ての人に身近な問題である。それぞれの症状や原因を理解し、適切な対処方法について考える。 （9 安井 知己／4回） 暮らしのなかの「対人関係」を取り上げる。「自分」「他者」「環境」と分けて取り上げ、自分が周囲とどのように関わって生きているのかを考える。また、周囲との関わりはストレスになることもあるため、対人ストレスの受け止め方や対処の方法についても理解を深める。	オムニバス方式
			感情・人格心理学		人間理解の中心的な枠組みであるパーソナリティと、日常生活において重要な働きを持つ“感情”について、重要な概念や理論的背景、研究知見について学び、感情に関する理論及び感情喚起のメカニズム、感情が行動に及ぼす影響等についての知識を修得する。また、これらについて基礎的な知識を修得し、自他のパーソナリティ理解を深め、パーソナリティの概念及び形成過程、パーソナリティの類型や特性等が日常行動にどのように表れるかを理解し、日常的な問題を解決するために用いられることを目指す。	
			発達心理学		人間が誕生し生涯を終えるまでの各ライフステージにおける言語・身体・認知・社会性等の発達を学習する。また、それぞれの時期の発達の特徴や課題、障害についても取り上げ、発達に関わる問題や困難についても理解を深める。人間の発達を生涯発達という観点から捉え、人間の発達の可塑性、重要性を確認し理解するとともに、自らの生き方や子育てに関わる問題について再考し、自らがその課題について振り返ることができる力を養う。	
			コミュニケーション実践		対人関係を円滑にすすめるための重要な要因となるコミュニケーションスキルの向上を目的としている。自分自身の資質や特徴を知り、自分自身の気持ちを適切に表現できるようになることが目標の一つである。同時に、相手を尊重することの大切さを学び、他者を嫌な気持ちにさせないコミュニケーションの取り方の獲得も目指す。具体的には、傾聴技法、ソーシャルスキルトレーニング、アサーション等を取り上げ、コミュニケーションスキルに関する実習を行う。	
			福祉心理学		社会福祉の理念及び倫理、福祉制度の歴史と動向を知り、福祉領域における心理師（士）の役割について理解する。福祉現場において生じる問題及びその背景を理解し、虐待やその他の心理社会的課題及び必要な支援、他職種連携の基本的知識を身につける。また、これらの知識を身につけた上で、福祉領域の心理的な問題への支援方法について、応用行動分析の概論、基本的原理、支援事例等から考察し、自らの意見を述べることを目標とする。	
			子ども理解の臨床心理学		臨床心理学を土台として子どもの心の発達、さまざまな精神障害や心理的問題に関する基本的な知識を修得することを目指す。子どもの心理的な発達過程について学ぶことで、心理的問題を抱える子どもたちや親に対する臨床心理学的支援の在り方や子どもの育ちについても理解を深める。また、子どもに対するイメージを広げ、子どもが持つ力を理解し、それらを根幹に持ちながら子どもと真摯に向き合い、共感的に子どもとコミットし、適切に子どもの心理を理解し援助できる素養を身につける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	選択必修科目	ライフデザインプログラム科目群	社会のなかの認知心理学		知覚、情報処理、記憶、認知バイアスの仕組み等から知覚から認知までのメカニズムの基礎を学ぶ。また、知識の表象と構造、推論と問題解決、認知と身体との関連、乳幼児の認知機能、文化の影響を受ける認知の仕組み等から、認知心理学が日常のどんな場面に生かされているかも取り上げ、客観的に物事を捉え、日常的な身の回りの出来事を論理的に分析し、現象の仕組みについて科学的に洞察する力を身につける。さらに、言葉の受け取り方等、認知機能の個人差及び影響についても考察する。	
			動物の心理学		比較認知心理学は、ヒトを含む現存する動物の心（認知）を調べ、動物種間の心の共通点と相違点からを明らかにすることで、動物の心を解明する学問である。また、外部から直接観察することが難しい心を明らかにするために、観察可能な環境内の情報と行動を測定する方法が用いられる。以上のような科学的に動物の心を解明する方法論を紹介し、行動から認知機能を明らかにするための方法論を理解する。また、それら方法論を用いて明らかになった及び動物のさまざまな心を紹介し、動物の認知機能を理解する。さらに、ヒトを含めた動物の心の多様性を理解することを目指す。	
資格科目	司書・学芸員に関する科目		図書館概論		「司書」資格と、本学の「司書課程」について、正確な理解を得る。その上で、図書館を構成する要素（資料・施設・職員・利用者）、図書館の社会的存在意義、各種の図書館とそれぞれの機能、等について、基本的な知識を、受講生が身につけることを目指す。図書館は、女性が多く働いている職場であるといえるが、歴史的背景や現状についても理解を深める。	
			図書館制度・経営論		日本の公共図書館の制度・経営についての基本的な知識を修得するとともに、現代の図書館が直面しているさまざまな事象―自治体における図書館の位置づけ、図書館の自由、電子化、危機管理、予算の確保、施設・設備、専門職員の配置、経営形態の多様化、等々についての問題点を整理・把握し、図書館経営のあり方について考察する。	
			図書館情報技術論		図書館の機能を支える、図書館業務システム、コンピュータ及びインターネットの仕組み、情報検索技術、データベース、検索エンジン、電子資料、情報管理のための技術と法等、図書館サービスに関わる基本的な情報技術について理解できるようになることを目的とする。図書館の機能を支える代表的な情報技術について学ぶ。これらが、どのような経緯で形成されるに至ったのか、利用者要求の深化と図書館機能の高度化促進との関係を理解し、自らの言葉で概要を説明することを目指す。	
			図書館サービス概論		図書館に投入される資源が厳しく抑制される一方で、メディアの多様化がすすんでいることもあり、図書館サービスに対する利用者の要求は、拡大する傾向にある。日本の公共図書館サービスに関する歴史の変遷について理解した上で、現代のメディア状況と利用者の動向を踏まえ、図書館サービスの現場で起きている状況について基礎的な知識を身につける。	
			情報サービス論		現代日本の社会において、日常生活に必要な情報入手から、学術的な調査研究まで、多様な局面における情報の収集と利用の面で、図書館がどのような役割を果たしている、について理解する。実際に行われている、図書館の情報サービスについて、現代のメディアの多様化を背景に、現実に図書館で行われているサービスの内容に関して、正確な知識を身につける。	
			児童サービス論		児童サービスを担当する司書として、「子ども（乳幼児からヤングアダルト）の発達」と「児童資料」について知り、子ども時代の読書の意義と重要性についての理解を深める。また、公立図書館を中心とした児童サービスの根幹となる理論を修得し、それを実現するための方法をレジュメ・実物・スライド等で理解し、時には全員参加型の実演も交えながら具体的に学んだあとに、再び理論を確認する。	
			情報サービス演習Ⅰ		図書館利用者とのコミュニケーションを円滑に行うために必要な配慮について学ぶ。また、情報サービスを提供するための図書館の施設・設備、情報源となる資料に関する近年の状況について、職員として必要な知識と併せて正しく理解する。さらに、利用者とのコミュニケーションや事実調査等の演習を体験することにより、主要な情報源の特徴を理解し、実践力を身につける。	
			情報サービス演習Ⅱ		レポート作成や就職活動、日常の問題解決において有益な情報を収集するために役立つ、ネットワーク情報資源と甲南女子大学図書館が提供するサービスとについて学び、それを利用するための知識と技術を身につけることを目的とする。	
			図書館情報資源概論		現代社会において、メディアは多様化しており、それに対応して図書館で収集・提供する情報源の範囲は拡大している。多様な資料について、その種類と特徴、資料選択の理論と実際、収集方針、利用者の要求と資料選択、資料の保存と管理、等の点について基礎的な知識を身につける。図書館情報資源の現状と将来的な方向性について一定程度理解し、図書館資料選択の望ましいあり方について、自身の見解を表明することを目指す。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
資格科目	司書・学芸員に関する科目	情報資源組織論		図書館の情報資源組織について学ぶ。主題（ジャンル）を軸に情報を探すための有効なシステムである「資料の組織化＝情報資源の組織論」と呼ばれる仕組みの概要に触れ、主題検索や主題分析の重要性について理解するとともに、図書館における情報を探し出すため手段を活用することを目指す。	
		情報資源組織演習Ⅰ		図書館資料の分類（主題目録作成）について、日本の多くの図書館で用いられている規則を取り上げ、演習と解説を行うことで、図書館での資料組織化についての理解を深める。また、日本の多くの図書館で採用されている資料の分類に関する規則（日本十進分類法）についての基礎知識を修得し、図書館での資料分類業務に、ある程度対応できる実践力を身につける。	
		情報資源組織演習Ⅱ		「情報資源組織論」の学習を踏まえて、さまざまな情報資源を活用するために、書誌データの作成の演習を通して情報資源の組織化についての実践的な能力を養成する。また、書誌データの作成等を通して、利用者に分かりやすく情報資源を目録データとして記録する技術、既存の書誌レコードを識別・同定できる理解力を身につける。	
		図書館基礎特論		図書館が社会的にどのような存在であると認識されているのかについて、多様な事例に基づいて検証する。フィクションの作品における図書館の描かれ方の分析を通して、図書館がフィクションの制作者の側に、どのようなイメージで見られているかについて理解する。作品に登場する図書館員は女性であるケースが多く、歴史的背景や現状についても理解を深める。	
		図書館サービス特論		図書館におけるさまざまなサービスに必須となったICT（情報通信技術）の観点から、遠隔でのサービス提供を図る図書館サービスにどのように応用できるかを把握する。また、今日的図書館情報サービスのデジタルトランスフォーメーションを理解した上で、図書館サイト及びLMS(学修管理システム)を運用した図書館サービスの演習を行い、遠隔でのサービス運営ができるようになることを目指す。	
		図書館情報資源特論		図書館が扱う資料の中でも地域資料は、固有の価値を有する資料群でありそのオープン化は、新たな価値を生み出す可能性を有している。図書館情報資源論で学んだ知見をICT（情報通信技術）の観点から応用し、主に地域に眠る郷土資料のデジタルサービスによる遠隔での活用を図るためのオープンデータ化について演習する。	
		図書・図書館史		図書・図書館の歴史の概略について、基本的な知識を身につける。図書館が公的な経費（税金）で設立・運営されるに至るまでの過程について、①ヨーロッパ及びアメリカ、②日本、それぞれについて、各種の図書館の変遷を理解する。人類の記録メディアのたどってきた道のりについて、図書を中心に、歴史的な経過を理解する。現在の図書館状況が成立するまでの過程を、自身の言葉で説明することを目指す。	
		図書館施設論		図書館建築をめぐる現代の動向について、実際の状況を写真・パンフレット・ホームページ等から学び、今日の図書館建築に見られる特徴について理解を深める。また、図書館の施設・設備に関する基礎的な知識に基づき、実際に図書館を訪問して、その施設・設備に関する評価を、自身の言葉で表現することを目指す。	
		博物館概論		博物館の歴史や今日の博物館の役割やその多様な活動について把握することを目的とする。また、学芸員課程の入門として、博物館とは何か、学芸員とは何かという基本的な概念や知識を身につけ、学芸員の基礎となる力を身につけることを目指し、学芸員資格取得のための各論への導入として現状と課題について考察する。博物館に関する基礎的な知識を身につけ、期待される博物館像と学芸員が取り組むべき課題について自覚的に考えることを目指す。	
		博物館資料論		博物館活動の根幹をなす「資料」について、その特性や多様性を学び、資料の保存や修復、資料の公開や収集等、博物館資料を取り扱う上で必要な知識及びそれぞれの取り扱いを概観する。博物館資料の社会的価値とその活用方法について学習する。また、博物館資料が形成される背景と収集後の取り扱いについて学習し、資料を通して博物館の意義を考察し、学芸員として主体的に資料を扱うことのできる基礎を身につける。	
		博物館教育論		博物館の社会教育施設としての役割を理解し、博物館教育に必要な知識と実践力を修得することを目的とする。また、博物館における教育活動の意義、理論及び背景について学ぶとともに、その実践方法について自ら考え、基礎的な博物館教育についての能力を身につけることを目指す。さらに、社会の一員として、社会教育についての理解を深める。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
資格 科目	司書・学芸員に関する科目	博物館実習		博物館学の知識を基に、学芸員資格取得に必要な知識や資料の取り扱い等の技術を学ぶ。学内実習（展覧会企画、梱包実習等）、学外実習（博物館における実習）、博物館見学等を通して実践的に学び、学芸員として即戦力となることを目指す。資料の保存に必要な知識を基に、資料を適切に取り扱い、展示・企画や教育普及の手法も身につける。	
		博物館情報・メディア論		博物館における情報・メディアの意義を理解し、その活用方法や情報発信の基本を学ぶ。情報化社会の進展やSNS、デジタルメディアの普及により、博物館を取り巻く環境は大きく変化している。情報の提供に伴うさまざまな問題にも触れながら、メディアとしての博物館の可能性についても考察する。また、博物館における情報・メディアのあり方を理解し、博物館運営に求められる情報発信能力と情報リテラシーを身につける。	
		博物館経営論		博物館が公的機関として成り立つ時代状況を把握し、博物館の基本理念を理解した上で、博物館の経営、運営に携わることのできる実践的な知識の修得を目的とする。博物館の施設、組織、行財政について理解し、地域貢献、来館者の教育、余暇の一環としての博物館経営の基本を身につける。また、学芸員を志す者として主体的に博物館経営に関わることを目指す。	
		博物館資料保存論		博物館資料の保存の意義を理解し、次世代に継承し、活用するために必要な知識を学ぶ。主要な博物館資料の材料や構造、劣化の原因を説明することができ、資料保存のための環境管理や資料の安全な取り扱いについての知識を得ることを目標とする。また、博物館における歴史的資料の保存及び公開の技法について修得し、日常的に資料、美術品の取り扱いを意識する姿勢を身につける。	
		博物館展示論		博物館における展示の意義や歴史的背景を学ぶとともに、モノとヒトの関係から有効な展示方法について、具体的な展示の理論や方法等の実践力を養う。また、資料展示に関する基礎的な知識として、展示の仕組みと機能、リスクマネジメントの手法等を学び、プランニング演習等を通じて展示のあり方や方法を自ら考察し、実践できるようになることを目指す。	
	ンレ・クイリタンエーストシラヨ	レクリエーション実習		地域において、さまざまな目的を持って開催されているレクリエーション事業を参加者あるいはスタッフとして体験し、レクリエーションの理論や実技の内容について理解を深める。また、都道府県や市区町村のレクリエーション協会の取り組みについても理解する。事業のねらいや対象者の特性を理解した上で、積極的に取り組むことができ、レクリエーション支援の必要性や自己の適性に気づくことができることを目指す。	

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人甲南女子学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
甲南女子大学				→	甲南女子大学				
文学部					文学部				
日本語日本文化学科	80	—	320		日本語日本文化学科	80	—	320	
メディア表現学科	70	—	280		メディア表現学科	70	—	280	
国際学部					国際学部				
国際英語学科	110	—	440		国際英語学科	110	—	440	
多文化コミュニケーション学科	80	—	320		多文化コミュニケーション学科	80	—	320	
					<u>心理学部</u>				学部の設置(届出)
					<u>心理学科</u>	<u>90</u>	—	<u>360</u>	
人間科学部					人間科学部	<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和7年4月学生募集停止
心理学科	90	—	360						
総合子ども学科	150	—	600		総合子ども学科	150	—	600	
文化社会学科	80	—	320		文化社会学科	80	—	320	
生活環境学科	80	—	320		生活環境学科	80	—	320	
看護リハビリテーション学部					看護リハビリテーション学部				
看護学科	100	—	400		看護学科	100	—	400	
理学療法学科	60	—	240		理学療法学科	60	—	240	
医療栄養学部					医療栄養学部				
医療栄養学科	80	—	320		医療栄養学科	80	—	320	
計	980	—	3,920		計	980	—	3,920	
甲南女子大学大学院				→	甲南女子大学大学院				
人文科学総合研究科					人文科学総合研究科				
言語・文学専攻 博士前期課程	9	—	18		言語・文学専攻 博士前期課程	9	—	18	
言語・文学専攻 博士後期課程	3	—	9		言語・文学専攻 博士後期課程	3	—	9	
心理・教育学専攻 博士前期課程	13	—	26		心理・教育学専攻 博士前期課程	13	—	26	
心理・教育学専攻 博士後期課程	3	—	9		心理・教育学専攻 博士後期課程	3	—	9	
社会・文化環境学専攻 博士前期課程	9	—	18		社会・文化環境学専攻 博士前期課程	9	—	18	
社会・文化環境学専攻 博士後期課程	3	—	9		社会・文化環境学専攻 博士後期課程	3	—	9	
看護学研究科					看護学研究科				
看護学専攻 博士前期課程	5	—	10		看護学専攻 博士前期課程	5	—	10	
看護学専攻 博士後期課程	3	—	9		看護学専攻 博士後期課程	3	—	9	
計	48	—	108		計	48	—	108	

甲南女子大学心理学部心理学科 設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	・・・ p.2
2. 学部・学科等の特色	・・・ p.6
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	・・・ p.7
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	・・・ p.8
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	・・・ p.12
6. 実習の具体的計画	・・・ p.15
7. 取得可能な資格	・・・ p.19
8. 入学者選抜の概要	・・・ p.20
9. 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色	・・・ p.24
10. 研究の実施についての考え方、体制、取組	・・・ p.25
11. 施設、設備等の整備計画	・・・ p.26
12. 管理運営	・・・ p.28
13. 自己点検・評価	・・・ p.29
14. 情報の公表	・・・ p.30
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	・・・ p.35
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・・・ p.36

1. 設置の趣旨及び必要性

1) 甲南女子大学心理学部の設置の趣旨及び必要性

学校法人甲南女子学園は、大正 9(1920)年に「甲南高等女学校」として創立されたことに始まる。その後、昭和 30(1955)年に開学した「甲南女子短期大学」等の変遷を経て、昭和 39(1964)年に「甲南女子大学」が開学し、中学校・高等学校・大学・大学院で構成される総合学園に発展し、現在の姿に至る。

心理学科の起源は、昭和 50(1975)年に文学部内に人間関係学科心理学専攻として設置されたことに始まり、平成 13(2001)年の人間科学部心理学科への改組を経て、現在で約 50 年の歴史を迎えている。今日までの教育活動において、「人の心を理解する」ための心理学の幅広い教育や研究が行われ、社会に貢献する人材を育成し数多く輩出している。

しかし、近年では社会環境が激変しており、少子高齢化やグローバル化、デジタル化等の要因が絡み合い、産業構造や働き方が大きく変化し、さらに生活様式も急激に変化している。このような変革が生み出す社会的課題や人々が抱える心理的諸問題は多岐にわたり、社会問題はますます多面化・複合化している。こうした状況下で、心理的な困難に直面している個人への適切な支援だけでなく、広範な心理学の基礎的知見、共感性及びコミュニケーション力を身につけた人材が求められている。特に、現代社会が抱える心理的諸課題について、解決のための具体的な方策を構築し、主体的に対応できる人材の養成は、社会におけるあらゆる分野から高等教育機関に対する強い要請であると認識している。

こうした社会的要請に応えるべく、令和 7(2025)年度に心理学部心理学科（入学定員 90 人）を設置することを計画した。今後更に複雑化、多様化する現代社会の諸課題を、心理学諸領域の幅広い教養、専門的知識及び技術を有して総合的に解決できる人材を養成する。

2) 心理学部において養成する人材像

甲南女子大学は、阪神間における女子教育の高等教育機関として長年の実績を有し、これまで社会的に有為な人材を数多く輩出している。「まことの人間をつくる」を建学の精神として掲げ、「全人教育」「個性尊重」「自学創造」を教育方針として、「清く 正しく 優しく 強く」を校訓に、今日に至るまで一貫して女子教育の社会的使命を果たしてきた。実社会で役立つ知識を身につけるだけでなく、人間性を磨く教育にも力を注いできたことは、卒業生の社会的な評価にも結びついている。

これらの建学の精神、校訓、教育方針からなる建学の理念を基盤として、「個性尊重・全人教育・自学創造の伝統を基調として広く知識を授け、深く専門の学術を教授研究し、誠実にして品位ある人格を養うとともに、教養高き女性を育成し国家社会の進運に寄与すること」を教育理念・目的としている。

以上の教育理念・目的を踏まえ、心理学部において養成する人材像は次のとおりである。「心理学の基礎を身につけた上で、社会や身近にある課題に気づき、客観的な観察力、論理的な思考力、数量的なデータ処理能力、AI等の先進的なテクノロジー、共感性及びコミュニケーション力を活用し、その解決に向けて取り組むことができる人材」を育成することを、心理学部の教育理念・目的とする。

3) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

ア. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学部の教育目的を達成するために、以下を卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とする。

(1) 知識・理解

- ①心理学の総合的知識。様々な対象やアプローチの仕方をもつ心理学諸領域の概念や理論を幅広く理解している。
- ②心理学の研究方法。心理学の多様な研究方法と分析方法を理解し、問題や目的に応じてデータ収集の仕方や分析方法を選択することができる。
- ③心の健康と心理支援の理解。精神的な健康や心理的な問題について基礎知識を有し、必要に応じて適切な心理支援を求めることができる。

(2) 汎用的技能

- ①基礎的な研究能力。実験や調査の実施を経験し、数量的なデータの収集や統計的な分析を行い、その結果を図表化を含め適切に記述、考察し、発表する基礎的な研究能力を身につけている。
- ②情報収集とその活用。的確な情報検索ができ、得られた情報の精度を吟味した上で、必要な情報をもとに自ら判断することができる。
- ③コミュニケーション力。他者の意見を聞き、自分の考えを伝え、円滑で有益なコミュニケーションを維持する力を身につけている。

(3) 態度・志向性

- ①人の多様性への尊重。人の多様性を深く理解し、互いの個性を尊重しつつ、様々な境遇にある人への共感や配慮ができる。
- ②他者との協働。自分の知識や能力を社会の中で発揮するとともに、他者の力を借り、協力する姿勢をもっている。
- ③成長・変化を受け入れる姿勢。人は生涯、成長・発達していくことを前提に、その時々で必要な知識・技能を学び続ける姿勢をもっている。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①新たな問題への対処。困難な課題や逆境に直面しても、心理学の知識や身につけた技能を使って、問題解決に向けて対処することができる。
- ②社会貢献。社会や身近にある課題に気づき、自分が身につけた知識や技能を活用すると共に、他者と協力しながら、社会環境の改善に貢献する姿勢をもっている。

イ. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下を教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）とする。

心理学部では、基本となる科目進行に加えて、それぞれの学生の興味や進路に応じて「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」からなる、3つのプログラム（履修推奨科目群）を設定している。

- (1) 基本的な科目進行としては、まず心理学全般にわたる基礎知識や心理統計の基礎を学びつつ、同時に大学での学びに必要となるアカデミック・スキルを習得する。
- (2) 次の段階として、個別の専門領域の学びを深めるとともに、実際に実験や調査、心理査定を実施し、より専門的なデータ処理や論理的な文章作成を学ぶ。
- (3) さらに、自ら主体的に問題を導出し、その解決・解明に向けて研究・開発を立案、実施するプロジェクト型学習やプロジェクト実践へと進む。
- (4) 公認心理師プログラムでは、心の問題や心理支援の基礎的な知識と技能を学ぶ。
- (5) キャリア・マネジメントプログラムでは、社会で活躍できることをめざして、集団や組織に関する心理学や、AIをはじめとするテクノロジーの活用を学ぶ。
- (6) ライフデザインプログラムでは、自分や他者の心を大切にしながら、精神的な豊かさを実現するために生活の中で活かせる心理学の知見を学ぶ。

ウ．入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、学力の三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協調性）」を前提として、以下を入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）とする。

（1）関心・意欲・態度

人の行動や心理に強い関心をもち、それを一面的な見方ではなく、複眼的な視野で客観的に理解しようとする姿勢をもっている人

（2）知識・教養

幅広い心理学諸領域の知識を学ぶにあたり、高等学校までに履修した国語、数学、英語、地理歴史、公民、理科などの基礎的な学力を習得している人

（3）思考力・判断力・表現力

社会や身近にある課題に気づき、観察・観測されたデータや的確な情報に基づいて自分の意見をまとめ、表現できる人

（4）協働性・主体性

自主的、積極的に学ぶ意欲を持って、実験・実習などの少人数クラスによく適応し、主体的にグループワークに参加しようとする態度をもっている人

なお、養成する人材像、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）との相関は、【資料 1】及び【資料 2】のとおりである。

【資料 1】心理学部心理学科の養成する人材像と 3 つのポリシーとの相関

【資料 2】心理学部心理学科カリキュラムマップ

4) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

心理学部が研究対象とする中心的な学問分野は、これまで培ってきた知覚・認知、発達、学習、パーソナリティ、社会、福祉、犯罪、臨床に関わる心理学の領域を基盤とする。この基盤の上に、「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」の 3 つのプログラムを設置し、現代社会が抱える心理的諸課題の課題解決に資する研究に取り組む。

2. 学部・学科等の特色

1) 教育課程の特色

心理学部では、基礎から応用まで幅広い心理学の知識とスキルを身につけた上で、ビジネスから日常生活まで様々な場面での課題解決をすることで、自分自身だけでなく、周囲や社会全体まで豊かにできる女性の育成を目指している。

このような心理学部の特色を踏まえて、「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」の3つのプログラムを設置する。各プログラムの特色は、以下のとおりである。

ア. 公認心理師プログラム

「公認心理師プログラム」では、これまでの公認心理師及び臨床心理士の養成に向けた教育を基軸とし、保健医療、福祉、教育、産業・労働、司法・犯罪等の現場において心理的な課題を持つ人を支える心理支援のプロフェッショナルを育成する。甲南女子大学は、平成14(2002)年に、大学院人文科学総合研究科に臨床心理士養成課程（心理・教育学専攻臨床心理学コース）を設置し、多数の臨床心理士を輩出している。また、平成30(2018)年には、同コースに、国家資格である公認心理師受験資格取得に対応した養成カリキュラムを設けるとともに、学部の心理学科でも公認心理師養成カリキュラムを新たに施行している。

さらに、併設する甲南女子大学心理臨床センターでは、地域の人々への心理的援助を実践するとともに、大学院の臨床心理学コースと密接に連携し、公認心理師・臨床心理士を養成するための実習の場としても機能している。学部在学中の「心理実習」と合わせて、多分野の実習を経験させることにより、学部卒業後及び大学院修了後に心理臨床現場で貢献できる人材を養成する。

イ. キャリア・マネジメントプログラム

「キャリア・マネジメントプログラム」では、人のキャリア選択や組織行動の特性を知り、自分自身のキャリアについては組織の能力を開発・マネジメントできる人材を育成する。消費者心理、組織心理学、グループ・ダイナミクス等の心理学的知識に加え、AI等の先進的なテクノロジー及びデータ分析方法を学ぶ。企画、広報、開発、人事等の様々な業務で求められる分析力や開拓力を身につけ、積極的にキャリアをマ

ネジメントできる人材を養成する。

また、卒業後の多様な進路を想定した上で、あらゆる産業において心理学的知見を生かすため、統計的な分析等データサイエンスの基礎的知識を身につける。これにより、データ駆動の意思決定を支援する役割を果たし、自らの専門性を生かしながらキャリアを構築する人材を養成する。

ウ．ライフデザインプログラム

「ライフデザインプログラム」では、心理学の知識や技術を日常生活の中で有機的に生かし、心と身体健康、日々の暮らしや身近な人間関係をより良いものにし、自分だけでなく周囲の人たちの精神的な豊かさを実現するために、自らライフ（人生・生活）をデザインできる人材を育成する。他者への印象形成につながる「ファッション」「化粧」等の心理学的な効用、円滑な人間関係の構築や心豊かな暮らしに必要な「コミュニケーション」「ストレスマネジメント」等、より豊かで健康的な社会生活を営むための実践的なスキルを身につける。

また、理論だけでなく、具体的に活用する場面を想定し、実践的な状況設定を通じて効果的にスキルを身につけることで、他者と協力しながら、社会環境の改善に貢献できる人材を育成する。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

1) 学部・学科の名称

心理学部では、知覚・認知、発達、学習、パーソナリティ、社会、福祉、犯罪、臨床に関わる基礎から応用までの心理学の領域を基盤とし、この基盤の上に設置する「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」において、現代社会が抱える心理的諸課題の課題解決に資する力を育成する。このため、学問領域の専門性を担保し、教育課程を明確に表現するものとして、学部名は「心理学部」、学科名は「心理学科」とする。

ア．学部名称

学部の名称は「心理学部」とする。英語表記は Faculty of Psychology とする。

イ．学科名称

学科の名称は「心理学科」とする。英語表記は Department of Psychology とする。

2) 学位に付記する分野

学位の名称は、組織として研究対象とする学問分野をより具体的に反映させるため、「学士（心理学）」とする。英語表記は、Bachelor of Psychology とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学部の教育目的、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するため、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定め、体系的な教育課程を編成する。

心理学部では、基本となる科目進行に加えて、それぞれの学生の興味や進路に応じて「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」からなる、3つのプログラム（履修推奨科目群）を設定している。

- (1) 基本的な科目進行としては、まず心理学全般にわたる基礎知識や心理統計の基礎を学びつつ、同時に大学での学びに必要なアカデミック・スキルを習得する。
- (2) 次の段階として、個別の専門領域の学びを深めるとともに、実際に実験や調査、心理査定を実施し、より専門的なデータ処理や論理的な文章作成を学ぶ。
- (3) さらに、自ら主体的に問題を導出し、その解決・解明に向けて研究・開発を立案、実施するプロジェクト型学習やプロジェクト実践へと進む。
- (4) 公認心理師プログラムでは、心の問題や心理支援の基礎的な知識と技能を学ぶ。
- (5) キャリア・マネジメントプログラムでは、社会で活躍できることをめざして、集団や組織に関する心理学や、AIをはじめとするテクノロジーの活用を学ぶ。
- (6) ライフデザインプログラムでは、自分や他者の心を大切にしながら、精神的な豊かさを実現するために生活の中で活かせる心理学の知見を学ぶ。

2) 教育課程の編成

心理学部では、「全学共通科目」と学部学科の「専攻科目」及び「資格科目」に区分して教育課程を編成している。「全学共通科目」では、甲南女子大学の教育方針である「全人教育」「個性尊重」「自学創造」を旨とした、新しい時代に求められる教養教育

の充実を図ることを目標に科目展開する。「専攻科目」では、各学科の専門的な学びの内容に応じてさらに細かく科目区分を設け、年次進行とともに知識や実践力をより専門的に修得できるよう図っている。「資格科目」は、司書課程等の資格に関連する科目を配置している。

また、心理学部の「専攻科目」では、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを踏まえ、多領域の心理学を学び、実社会の様々な問題に心理学的に対応できる人材育成を目指したカリキュラムを設計している。

- (1) 基本的な科目進行としては、まず心理学全般にわたる基礎知識や心理統計の基礎を学びつつ、同時に大学での学びに必要なアカデミック・スキルを習得する

必修科目として、心理学の基礎的な知識やリテラシーの修得のため「心理学概論」「心理学統計法（基礎）」「心理学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」等を1年次に配当し編成している。

- (2) 次の段階として、個別の専門領域の学びを深めるとともに、実際に実験や調査、心理査定を実施し、より専門的なデータ処理や論理的な文章作成を学ぶ。

実験や調査、心理査定を修得するため、必修科目として、「心理学実験」を1年次に配当している。2年次には身近なテーマを題材に実験や調査の演習を行う「心理学応用セミナーⅠ・Ⅱ」、3年次には高度な専門性を必要とする「心理的アセスメント」等の科目を配当し、段階的な学びを編成している。

- (3) さらに、自ら主体的に問題を導出し、その解決・解明に向けて研究・開発を立案、実施するプロジェクト型学習やプロジェクト実践へと進む。

現代社会が抱える心理的諸課題の課題解決に資する力を育成するため、「心理学プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」「心理学プロジェクト実践Ⅲ・Ⅳ」等を、必修科目として編成している。

- (4) 公認心理師プログラムでは、心の問題や心理支援の基礎的な知識と技能を学ぶ。

公認心理師等の心理専門職を目指す場合に取得すべきカリキュラムとして、臨床心理的援助を実践する能力を発揮するための基礎的な知識と技能を修得するため、「公認心理師の職責」「臨床心理学概論」「心理学的支援法」等を編成している。

- (5) キャリア・マネジメントプログラムでは、社会で活躍できることをめざして、集団や組織に関する心理学や、AIをはじめとするテクノロジーの活用を学ぶ。

キャリア選択、組織行動の特性に関する基礎的な知識を修得し、さらにビジネスの

幅広い分野で役立つプログラミング及び AI 解析スキルを育成するため、「キャリア・マネジメント入門」「産業・組織心理学」「心理プログラミング・AI 演習」等を編成している。

(6) ライフデザインプログラムでは、自分や他者の心を大切にしながら、精神的な豊かさを実現するために生活の中で活かせる心理学の知見を学ぶ。

心と身体健康、身近な人間関係をより良いものにし精神的な豊かさを実現するため、「暮らしのなかの心理学」「コミュニケーション実践」「社会のなかの認知心理学」等を編成している。

3) 科目構成の内容と特徴

ア. 全学共通科目

「全学共通科目」は、甲南女子大学の学部学科全体に共通開講する授業科目で、各学科専攻科目の履修に当たり基礎となる知識の修得や、豊かな人間性育成を目的として、幅広い分野の科目を、以下のとおり展開している。

(1) 基礎科目

大学への理解を深め、学修に当たり必要となる基礎的知識を身につけることを目的として「大学科目」「基礎スキル科目」「リーダーシップ科目」を設置している。初年次教育の一環として、教育理念や建学の精神を理解するための科目「大学を知る」を開講している。

(2) 教養科目

自らの専門とは異なる分野・領域についての知識や考えを学んで広い視野を獲得し、学際的思考を可能にするため、「人文科学科目」「社会科学科目」「自然科学科目」「健康科学科目」を設置している。

(3) 総合科目

キャリア形成を含むライフデザインのため、女性と社会との関係についての知識を身につけ、判断力や行動力を獲得することを目指して「女性とジェンダー科目」「国際理解科目」「芸術科目」「キャリア支援科目」を設置している。

(4) 言語・情報科目

コミュニケーションスキルの向上を目的として「言語科目」「情報科目」「情報保障科目」を設置している。「言語科目」では「英語」「韓国語」「中国語」「マレー・インドネシア語」を設置しており、「英語」は 8 単位必修である。また、「情報科目」のうち「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」は、大学での学習に必要な ICT スキルを身につける

ことを目的に必修としている。

(5) 健康・スポーツ科目

心身の健康に関する知識の修得と実践、社会生活において健康で活動的なライフサイクルを形成するための能力獲得を目的に、実技を含む科目を開設している。

イ. 専攻科目

心理学部の「専攻科目」は、カリキュラム・ポリシーに対応した「必修科目」「選択必修科目」で構成される。また、「選択必修科目」は、学生の興味や進路に応じた3つのプログラム、「公認心理師プログラム科目群」「キャリア・マネジメントプログラム科目群」「ライフデザインプログラム科目群」に加え、心理学で用いられる統計手法を身につける「統計科目群」を展開している。

ウ. 資格科目

「資格科目」では、「司書・学芸員に関する科目」「レクリエーション・インストラクターに関する科目」の2つの科目区分を展開し、それぞれの資格及び免許取得に必要な科目を配置している。

4) 必修科目・選択科目の構成とその理由

心理学部の教育課程では、全学共通科目における「英語会話Ⅰ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)、「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」(各1単位)、専攻科目における「心理学概論」「心理学統計法(基礎)」「心理学実験」「心理学研究法」「心理調査概論」(各2単位)、「心理学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学応用セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)、「心理学プロジェクト実践Ⅲ・Ⅳ」(各4単位)を必修科目とする。

全学共通科目の「英語会話Ⅰ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」は、国際性を備え社会に貢献する高い志を持つ女性を育成する大学の使命を果たすため、必修科目としている。また、「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」では、デジタル社会を生き抜くための知識、判断力等を育成するため、必修科目としている。なお、全学共通科目では、教育方針である「全人教育」「個性尊重」「自学創造」を旨とし、学生自身の興味関心によって、社会人の基盤としての幅広い知識と豊かな人間性を培うため、他の科目は選択科目とした。

さらに、専攻科目では、心理学の基礎的な知識やリテラシーの修得、実験や調査、心理査定といった心理統計のスキル修得のため、「心理学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学応用セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学概論」「心理学統計法(基礎)」「心理学実験」「心理学

研究法」「心理調査概論」を必修科目としている。また、これらの心理学の知識及び技能を生かして心理的諸課題を解決する力を育成するため、「心理学プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」「心理学プロジェクト実践Ⅲ・Ⅳ」を必修科目としている。なお、専攻科目では、幅広い領域の心理学から構成される専門的な3つのプログラム等を、学生が将来の進路及び興味に応じて自ら選択し主体的に学ぶことで、実社会の様々な問題に心理学的に対応できる人材を育成するため、他の科目は選択科目とした。

5) 養成する人材像を踏まえた主要授業科目の考え方

心理学部では、心理学の基礎を身につけた上で、社会や身近にある課題に気づき、客観的な観察力、論理的な思考力、数量的なデータ処理能力、AI等の先進的なテクノロジー、共感性及びコミュニケーション力を活用し、その解決に向けて取り組むことができる人材を、養成する人材像としており、この教育目的を達成するために卒業要件として修得を必要としている科目を必修科目として配置している。

このため、必修科目である「心理学概論」「心理学統計法（基礎）」「心理学実験」「心理学研究法」「心理調査概論」「心理学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学応用セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」「心理学プロジェクト実践Ⅲ・Ⅳ」を主要授業科目として設定し、ディプロマ・ポリシーに定める達成すべき能力を育成する教育課程を編成している。

なお、本学は前期後期の2学期制を採用しており、両学期とも13週を基本的な授業開講期間としている。大学設置基準に準拠し、オリエンテーション、試験、補講の週も含めて、年間35週間を授業期間としている。各授業科目における各回の授業時間、授業回数、授業外での予習、復習時間は、最大限の教育効果が得られることを目的として上記の2学期制を採用している。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1) 授業内容に応じた授業の方法、配当年次、学生数

心理学部における授業の方法は、人文科学（心理学）を主とした分野であることから、講義科目と演習科目を中心として、1年次から4年次まで、系統的かつ段階的に学びを発展させていくことができる科目配置としている。

1年次には、全学共通科目及び専攻科目においては必修科目を中心に履修し、専攻科目の履修に当たり基礎となる知識の修得及び豊かな人間性の育成に加え、心理学全

般にわたる基礎知識の修得を目指す。

2 年次には、専攻科目の講義科目を中心に、心理学の専門的知識と基礎的な技能の修得を目指す。また、基礎的な実験、観察、調査の技能を修得するため、演習科目及び実習科目を配置している。

3 年次には、興味関心及び将来の進路に応じて、「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」の講義科目、演習科目及び実習科目を通じて、より専門的な知識及び技能の修得を目指す。また、心理学の知識を社会や日常生活で生かすための実践的な能力を獲得するため、「心理学プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置している。なお、公認心理師法施行規則で定める心理演習及び心理実習の科目「心理演習」「心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」については、将来公認心理師を目指す学生に限らず、心理学部の学生で履修要件を満たしている場合は、希望者全員が履修可能な科目としている。

4 年次には、「心理学プロジェクト実践Ⅲ・Ⅳ」を必修科目として配置し、これまでの学修で得た心理学の知見と社会との関連から具体的な課題を見出し、解決に取り組む力を育成する。

また、講義・演習科目では、教育効果を高めるため、原則 40 人又は 50 人を基準として授業を実施する。ただし、基準を超える授業についても、機器等を使用し教育環境の質を担保する。なお、「心理学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学応用セミナーⅠ・Ⅱ」「心理学プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」においては、15～20 人程度を基準にクラスを編成する。

2) 履修指導方法

ア. アドバイザー教員制度の導入

甲南女子大学では、全学部学科でアドバイザー教員を導入しており、心理学部でも 1 学年当たり 7～8 クラス構成とし、各クラスに基幹教員をアドバイザー教員として配置している。アドバイザー教員は、学生の修学、課外活動、健康、人間関係等、学生生活全般にわたって相談を受け、履修指導を含む多様な助言を行っており、必要に応じて、教務委員、授業担当教員等とも連携し対応している。また、年に 2 回、学生の成績を保証人へ通知しているため、保証人から学生の学修状況について問い合わせがあった場合も、アドバイザー教員を中心に対応している。学修支援に当たっては、アドバイザー教員、教務課員等が密に連携し、情報を共有しながら適切な支援体制を構築するとともに、学生の勉学に対する意欲の維持及び向上と退学者の削減に努めてい

る。

アドバイザー教員による心理学部の履修指導は、1 年次は入学時及び必修科目である「心理学基礎セミナーⅠ」において実施し、2 年次以降も前期及び後期開始前のオリエンテーションでガイダンスを実施するとともに、教員のオフィスアワーを活用して学生への個別指導を行っている。

イ. 履修モデルの提示による指導体制

心理学部では、「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」の 3 つの履修モデルを提示している。【資料 3】

学生の興味関心、希望する進路から専門性を深める体系的な学びを提示し、学生自身の主体的な選択を促しているが、必要に応じてアドバイザー教員の履修指導において、適切な助言を行う体制としている。

【資料 3】心理学部心理学科履修モデル

ウ. 履修登録の上限（CAP 制）

甲南女子大学では、学習効果の観点や充実した学修環境を提供するため、4 年間を通じて学生が各学期に履修登録できる単位数に上限を設定、いわゆる CAP 制度を導入しており、新入生全員に配布する『学生要覧』に明記の上、履修指導を行っている。1 年間の履修登録上限数は、1～4 年次で 48 単位、前期後期ともに 24 単位としている。

また、単位取得のために必要な学修時間について、「大学学則」第 15 条に「各授業科目に対する単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、第 15 条の 2 第 1 項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。」と定めている。心理学部においては、講義科目及び演習科目については、15 時間から 30 時間、実習科目については、30 時間から 45 時間の時間の授業に加え、事前・事後学修を含む学修時間により単位を設定している。

3) 卒業要件

4 年以上在学し、全学共通科目 30 単位以上（基礎科目 2 単位以上、教養科目 10 単位以上、総合科目 8 単位以上、言語科目 8 単位以上、情報科目 2 単位以上）、専攻科目から 62 単位以上（必修科目 30 単位、選択必修科目から 32 単位以上）、自由選択科

目（全ての科目区分から自由選択）32 単位以上の合計 124 単位以上修得することを、心理学部の卒業要件とする。卒業要件単位の取得については、入学時並びに各セメスター開始時のオリエンテーションで周知徹底を図り、主体的な学修への取組についても指導を行っていく。科目区分ごとの卒業要件は、下表のとおりである。

【心理学部心理学科の卒業要件】

科目区分			卒業要件		
全学共通科目	基礎科目	大学科目	2 単位以上	全学共通 科目から 30 単位以上	全ての選択 科目から 32 単位以上
		基礎スキル科目			
		リーダーシップ科目			
	教養科目	人文科学科目	10 単位 以上		
		社会科学科目			
		自然科学科目			
		健康科学科目			
	総合科目	女性とジェンダー科目	8 単位以上		
		国際理解科目			
		芸術科目			
		キャリア支援科目			
言語・ 情報科目	言語科目	8 単位以上			
	情報科目	2 単位以上			
	情報保障科目	-			
健康・スポーツ科目		-			
専攻科目	必修科目		30 単位	専攻科目 から 62 単位以上	
	選択必修 科目	統計科目群	32 単位 以上		
		公認心理師 プログラム科目群			
		キャリア・マネジメント プログラム科目群			
		ライフデザイン プログラム科目群			
資格 科目	司書・学芸員に関する科目		-		
	レクリエーション・インストラクター に関する科目		-		
卒業要件単位数			124 単位以上		

6. 実習の具体的計画

1) 実習の目的

心理学部では、公認心理師に求められる知識と技術を修得し、実践力を身につけることを目的として、2年次に「心理実習Ⅰ」、3年次以降に「心理実習Ⅱ」「心理実習Ⅲ」を配置している。

「心理実習Ⅰ」では、公認心理師が活躍することが期待されている施設・機関において見学等による実習を行う。まず、授業及び事前指導を通して各分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）の特徴や公認心理師の業務について学び、さらに実際に実習を行う施設や機関についての予備知識や学外実習を行うための態度・倫理を身につける。その後の学外実習では、各施設での心理的支援の実践について主に見学等による実習を行う。学外実習後は、実習内容を記録にまとめ、事後指導及び実習報告会を通してより深い理解につなげる。

「心理実習Ⅱ」では、心理的支援を必要とする各分野についての知識を深め、学外実習を通して専門職としての態度及び倫理を身につける。学外実習では、スタッフの一員として要支援者に関わることで心理的支援の実践力を養う。

「心理実習Ⅲ」では、「心理実習Ⅱ」に引き続き学外実習を行う。実習施設でのスタッフの業務や要支援者への関わりを見ながら、多職種連携を行うために必要となる知識やコミュニケーション能力、問題解決能力を身につけることを目的としている。

2) 実習先の確保の状況

「心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の実習先として、14施設から承諾を得ている。このうち、保健医療分野は1施設、福祉分野として8施設、教育分野に4施設、司法・犯罪分野として1施設である。【資料4】【資料5】

【資料4】心理学部心理学科実習施設一覧

【資料5】心理学部心理学科実習施設等承諾書

3) 実習先との契約内容

契約内容については、実習依頼書に、実習場所、期間、実習学生、時間、実習費、実習先担当者及び担当教員を明記した上で、実習承諾書の記入捺印を依頼し、実習施設が承諾書を返送した時点で、実習受入れの契約が成立している。また、必要に応じて実習に関する委託契約書を作成し、施設と取り交わしており、委託事業（実習科目、機関及び実習施設名）、委託経費、学生の服務、学生の負債または罹患、学生の損害賠償、秘密の保持等の内容を規定している。さらに、事前のガイダンスでは、実習先での慎重な配慮、事故防止、個人情報及び法人機密情報の取扱いについて、十分な

注意を促すよう指導を行っている。なお、個人情報等の保護について、実習先で指定の誓約書がある場合には、必ず提出させている。

4) 実習水準の確保の方策

「心理実習Ⅰ」を履修するには、「公認心理師の職責」の単位を取得していることを要件としている。「公認心理師の職責」は1年次から履修できるよう配置しており、公認心理師として心理的な支援を行う際に求められる態度、技能、知識及び関連制度等を学び、公認心理師資格への理解を深めるとともに実習に出るための必要なマナーや心構えを修得する。

さらに、「心理実習Ⅱ」「心理実習Ⅲ」の履修には、「心理実習Ⅰ」「心理演習」の単位を取得することを要件としている。「心理演習」は、2年次から履修できるよう配置しており、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通して、心理支援に関する知識、技能及び態度を修得する。また、心理支援を要する者等との関わり、多職種との連携に必要なコミュニケーションスキルを修得し、事例検討を通して心理に関する支援を要する者等について理解を深め、必要な支援計画を立てる力を養成している。

また、学外実習中には、「実習日誌」の作成を必須としており、毎回の実習記録を担当教員に提出させるとともに、担当教員が適宜面談を行い、事前及び事後の指導を行っている。実習記録の内容に関しても、個人情報については慎重に取扱い、個人が特定される情報がないかを担当教員が厳しく精査し、必要に応じて指導を加える体制としている。実習記録については、実習先の指導者にも指導していただいている。

5) 実習先との連携体制

実習先との連携体制については、実習前に心理学部の実習担当教員と、実習先の実習指導者との間で、実習内容や指導方針について綿密な打ち合わせを行っている。また、担当教員は、実習期間中週1回以上の定期的な実習先への巡回及び実習先への電話連絡等を行っており、連携に努めている。

6) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学生の健康状態については、事前に健康診断結果を基に問題がないことを確認した上で、流行性ウイルス疾患についての予防接種を学生に推奨している。また、実習先によって抗体検査が必要な場合には、その指示に従っている。なお、全国的なウイル

ス疾患の流行が見られた際には、大学の方針に従い迅速に対応している。

さらに、実習期間中の事故に備えて、大学が指定する保険（学生教育研究災害障害保険、学研災付帯賠償責任保険）に加入している。

7) 事前・事後における指導計画

事前指導では、各実習施設に関する基本的知識、実習施設における心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深める学習を行う。また、「実習ハンドブック」【資料 6】に基づき、実習に当たっての心得、態度、マナー、感染症予防対策、実習記録のまとめ方等についての指導を行う。

事後指導では、担当教員指導の下、実習記録を用いて学外実習の振り返りを行い、実習中の学びについての理解を深めるとともに、実習報告会に向けての準備を進める。実習報告会では、各実習施設での体験を共有し、公認心理師が行う支援の現場について、改めて理解を深める機会を設けている。

【資料 6】心理学部心理学科心理実習ハンドブック

8) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

「心理実習Ⅰ」では、履修者全員を担当教員が引率し実習施設を見学している。履修人数に応じて 15 人以上に 1 人以上の担当教員を配置している。また、「心理実習Ⅱ」「心理実習Ⅲ」では、実習期間中の中、担当教員がおおむね週 1 回以上の定期的な実習先への巡回指導を行っている。

9) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設における実習指導者については、心理学に関する専門的知識及び技術を持ち、公認心理師法第 2 条の各号に掲げられている行為の業務に 5 年以上従事又は従事した経験のある者に、実習指導を依頼している。なお、いずれの分野の実習においても、実習担当教員が同時に指導に当たっている。

10) 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価及び単位認定については、①所定の実習時間を満たしていること、②毎回の実習記録の提出、③実習指導者及び実習担当教員からの指導を受けていることの 3 点を前提として、実習施設側の指導者からの評価、学生本人の自己評価を踏まえた上

で、実習担当教員の合議により決定している。「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」「心理実習Ⅲ」のいずれも、学内の授業（事前・事後指導）と学外の実習の評価を合わせて各1単位を認定している。

11) その他特記事項

特記事項は特になし。

7. 取得可能な資格

心理学部の教育課程において必要な科目を履修し、単位を修得することで、下記の資格を取得することが可能である。ただし、いずれの資格も卒業要件として取得を義務づけるものではない。司書、学芸員の免許・資格については、卒業要件として求められる履修科目に加えて、それぞれ追加の科目の履修と単位の修得が必要である。

【国家資格】

資格名	認定団体	資格取得・受験資格の別	取得の条件等
公認心理師	厚生労働省・文部科学省所管	受験資格	所定の科目を修得後、大学院に進み、公認心理師所定の科目を修得するか、所定の施設で実務経験を積むことで受験資格が得られる。
司書	文部科学省	資格取得	卒業要件に加え、必要な所定の科目を履修し単位を修得することで、資格取得が可能。
学芸員	文化庁	資格取得	卒業要件に加え、必要な所定の科目を履修し単位を修得することで、資格取得が可能。

【民間資格】

資格名	認定団体	資格取得・受験資格の別	取得の条件等
認定心理士	公益社団法人日本心理学会	資格取得	卒業要件に加え、必要な所定の科目を履修し単位を修得することで、資格取得が可能。

レクリエーション・インストラクター	公益財団法人 日本レクリエーション協会	資格取得	卒業要件内で、必要な単位を修得することで、資格取得が可能
-------------------	------------------------	------	------------------------------

8. 入学者選抜の概要

1) 入学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学部の教育目的、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するため、以下のとおり、学力の三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協調性）」を前提とした入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定め、求める学生像を明確にした上で入学者選抜を実施する。

（1）関心・意欲・態度

人の行動や心理に強い関心をもち、それを一面的な見方ではなく、複眼的な視野で客観的に理解しようとする姿勢をもっている人

（2）知識・教養

幅広い心理学諸領域の知識を学ぶにあたり、高等学校までに履修した国語、数学、英語、地理歴史、公民、理科などの基礎的な学力を習得している人

（3）思考力・判断力・表現力

社会や身近にある課題に気づき、観察・観測されたデータや的確な情報に基づいて自分の意見をまとめ、表現できる人

（4）協働性・主体性

自主的、積極的に学ぶ意欲を持って、実験・実習などの少人数クラスによく適応し、主体的にグループワークに参加しようとする態度をもっている人

2) 選抜方法

甲南女子大学では「全人教育」「個性尊重」「自学創造」を教育方針と定めている。これは、人との調和を重んじ、確かな知性と教養に裏付けされた品格を身につけ、自己の感性を尊重し、その才能を伸ばし、自分で未来を拓く力を獲得することを目指している。

この教育方針に沿って、多様な視点で物事を捉え、考える力を持ち、自分で未来を拓く力を持ちうる未来志向の学生を受入れることを入学者選抜の基本方針とし、学業

での成績は当然ながら、学習意欲と目的意識が明確な学生の確保に努めている。そのため、学力試験を含め様々な選抜方法が必要であり、アドミッション・ポリシーを基に、公正かつ妥当な方法を採用し以下の入学者選抜を実施する。

なお、下記の全ての入学者選抜において、提出書類、入試科目、面接等の選抜方法の設定により、アドミッション・ポリシーで定めた求める学生像を満たしているかどうかを確認できるようにしている。

ア. 推薦型選抜

(1) 学校推薦型選抜（専願）

専願を希望とする者を対象とした入学者選抜で、出身学校長の推薦に基づき、出身学校においての基礎学力を調査書により数値化した得点と、大学進学に要する基礎能力を測る筆記試験〈外国語（英語）・国語〉の得点を基に、合否判定を行う。

(2) 学校推薦型選抜（併願）

併願を希望とする者を対象とした入学者選抜で、出身学校長の推薦に基づき、出身学校においての基礎学力を調査書により数値化した得点と、大学進学に要する基礎能力を測る筆記試験〈外国語（英語）・国語〉の得点を基に、合否判定を行う。

(3) ファミリー推薦型選抜（専願）

甲南女子学園の卒業生、在学生等の親族がいる者で、甲南女子大学への進学を特に強く希望する者を対象とした専願制の入学者選抜で、大学進学に要する基礎能力を測る筆記試験〈外国語（英語）・国語〉と書類審査及び面接を基に、総合的に評価し合否判定を行う。

(4) 指定校推薦型選抜（専願）

甲南女子大学が指定した高等学校及び中等教育学校からの推薦に基づく、専願を希望する者を対象とした入学者選抜で、目的意識、意欲、適性等を面接及び書類審査を通じて、総合的に評価し合否判定を行う。

(5) スポーツ推薦型選抜（専願）

出身学校長の推薦に基づき、スポーツ活動において優秀な成績をおさめた者で入学後も勉学と当該スポーツ活動を両立させる強い意志を持つ者を対象とした入学者選抜で、書類審査、実技（又は体力テスト）及び面接を基に、総合的に評価し合否判定を行う。

(6) 内部進学型選抜（専願・併願）

甲南女子大学附属の高等学校を卒業見込みの者のうち、推薦基準より選抜され高等

学校長より推薦された者が受験資格を有し、調査書を基に合否判定を行う。専願制と併願制で実施する。

イ. 一般選抜

(1) 一般選抜Ⅰ日程・Ⅱ日程

甲南女子大学選抜制度の中で募集人員が最も多い学力試験による入学者選抜で、各学部各学科の教育に必要な学力を評価し合否判定を行う。入学後の学習を考慮し、特にその強化科目を基礎とする学科については、必須科目を設定している。心理学部では、外国語（英語）、国語、数学又は理科の3教科が受験科目となる。外国語（英語）を必須とし、3教科のうち2教科2科目選択、又は3教科3科目受験のいずれかを受験科目として課している。

(2) 一般選抜Ⅲ日程・Ⅳ日程

学力試験による入学者選抜で、各学部各学科の教育に必要な学力を評価し合否判定を行う。また、甲南女子大学が実施する学力試験と大学入学共通テストの得点を用いることができる。心理学部では、国語と外国語（英語）を甲南女子大学の学力試験で受験し、地理歴史、公民、数学、理科については、大学入試共通テストの得点を用いて合否判定をする。

ウ. 大学入学共通テスト利用選抜

(1) 大学入学共通テスト利用選抜（Ⅰ日程）

甲南女子大学独自の学力試験ではなく、大学入学共通テストの成績で評価し合否判定を行う。広い範囲にわたる基礎学力を評価するため、大学入学共通テストで出題範囲となっている教科科目を可能な限り活用できる制度としているが、入学後の学習内容を考慮し、特にその強化科目を基礎とする学部学科については、必須科目を設定している。心理学部では、外国語（英語・リスニングを含む）を必須としている。

(2) 大学入学共通テスト利用選抜（Ⅱ日程）

大学入学共通テストの成績と、面接の結果を基に、総合的に評価し合否判定を行う。大学入学共通テスト利用選抜（Ⅰ日程）同様、心理学部では、外国語（英語・リスニングを含む）を必須としている。

エ. その他の選抜

(1) 総合型選抜（専願）

専願を希望する者を対象とした入学者選抜で、求める学生像（アドミッション・ポリシー）に照らし、適性を多面的に検討して、合否判定を行う。心理学部で学ぶに当たっての志望理由書を事前課題として課す。さらに、面接試験において高校での勉学及び活動実績が記載された調査書の結果を総合的に評価し、合否判定を行う。

（2）特別選抜

帰国子女、外国人留学生、社会人を対象とした入学者選抜で、小論文、書類審査及び面接を基に、総合的に合否判定を行う。また、受験に際しては、大学教育を受けるのに十分な基礎的能力を有することも必要としている。なお、社会人を受入れる際の既修得単位数は、甲南女子大学に入学する前に大学又は短期大学等で修得した単位を、授業科目の内容に応じて 30 単位を超えない範囲で認めることができる。願い出のあった既修得単位の認定については、教務委員会において審議し、教育上有益と認められた場合に、学部教授会の議を経て学長が単位を認定する。

なお、外国語（英語）の外部検定試験の活用については、推薦型選抜及び一般選抜における外国語（英語）で、4 技能（読む、聞く、話す、書く）を評価するために、外部の英語検定試験（実用英語技能検定・GTEC）を活用する。

これらの入学者選抜を公正かつ厳格に実施するため、入学試験実施委員会を設置し、入学試験実施委員長を中心に入学者選抜業務のプロセス全体の把握に努め、盤石な実施体制を確立している。また、入学者選抜実施に関わる教職員に対しては、入学試験実施要項に基づき説明を行い、ミスのない円滑な入学試験の実施に努めている。

入学試験問題の作成においては、学長補佐（入学試験担当）を問題作成委員長とした入学試験問題作成委員会を設置し、問題作成に関する責任を明確にするとともに、入学試験問題の質的向上とミスの防止に努めている。

心理学部の募集定員は 90 人とし、各入学者選抜の募集人員は次のとおり予定している。

【入学者選抜別の募集定員】

選抜制度		募集人員
推薦型選抜	推薦型選抜（専願）	14 人
	推薦型選抜（併願）	12 人
	ファミリー推薦型選抜	2 人
	指定校推薦型選抜	9 人
	スポーツ推薦型選抜	2 人
	内部進学型選抜	3 人

選 一 拔 般	一般選抜Ⅰ日程・Ⅱ日程	20 人
	一般選抜Ⅲ日程・Ⅳ日程	6 人
大学入学 共通テスト 利用選抜	大学入学共通テスト利用選抜（Ⅰ日程）	10 人
	大学入学共通テスト利用選抜（Ⅱ日程）	2 人
その他の 選抜	総合型選抜	10 人
	特別選抜	若干数
合計		90 人

9. 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色

1) 教育研究実施組織の編制の考え方

心理学部では、「心理学の基礎を身につけた上で、社会や身近にある課題に気づき、客観的な観察力、論理的な思考力、数量的なデータ処理能力、AI等の先進的なテクノロジー、共感性及びコミュニケーション力を活用し、その解決に向けて取り組むことができる人材」の養成を教育目的としており、多領域の心理学を学び、実社会の様々な問題に心理学的に対応できる人材育成を目指したカリキュラムを設計している。このため、教員組織の編制に当たっては、それぞれの教育・研究分野における教育実績、研究実績及び実務経験が豊富な教員で、基幹教員を中心とした教育研究実施組織を編成する。また、准教授、講師として配置する教員については、将来的に各学科の中心的教員となるべく、研究と教育経験の両面から、さらに研鑽を積むよう指導をする。具体的には、各分野における教育内容の教授法についての意見交換を含む、定期的な研修会の開催等が挙げられる。心理学部の教員組織の編制は以下のとおりである。

心理学部の基幹教員は10人で、教授5人、准教授4人、講師1人で構成する。全員、将来的に廃止予定である人間科学部心理学科から異動し着任することから、大学での豊富な教育研究実績を持っている。さらに、全員、専ら心理学部の教育研究に従事する者で、主要授業科目を担当する基幹教員である。なお、博士学位を保持する者は10人中7人である。また、全員が心理学を専門分野とする教員であり、心理学部の専攻科目を担当する。心理学部における主要授業科目は、原則として教授又は准教授の基幹教員を配置する。

さらに、甲南女子大学では各学部・各学部に事務職員で構成される「学部事務課」を組織し、教育目的達成のため教員と職員が協働している。

以上のとおり、甲南女子大学及び心理学部では、その教育研究活動の運営が組織的

かつ効果的に行われるよう、教員及び事務職員等が適切に役割分担の上協働できる教員研究実施組織を編制している。また、学生の課外活動、修学、進路選択及び心身の健康に関する指導及び援助等の厚生補導においても、学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談等に対応するため、「からだの支援室」「こころの支援室」等を設置し、専属の教員や事務職員を置く組織を整備している。

2) 教員の年齢構成と定年

心理学部の基幹教員 10 人の年齢構成については、完成年度の 3 月末時点において、40 歳から 49 歳が 2 人、50 歳から 59 歳が 7 人、65 歳から 69 歳が 1 人となっており、年齢の偏りのない教員構成である。

また、完成年度である令和 10 年 3 月末日時点で定年を超える年齢の教員は、1 人である。「甲南女子大学教員定年規程」【資料 7】において、教員の定年は満 65 歳とし、定年に達した日の属する年度の末日をもって現職を退くものと定められているが、「授業その他の理由により必要と認めた場合には、特任教員として再任用することができる」としている。この場合、「甲南女子大学第 1 種特任教員・甲南女子大学第 2 種特任教員規程」【資料 7】において、満 70 歳に達する年の年度末を定年と定めている。さらに、「甲南女子大学教育職員の任期制に関する規程」【資料 7】において、学部等の新設時の特例として 70 歳を超えた者についても任用可能とする旨を明記し、学年進行中に 70 歳に達する教員に対しても適用することとしている。以上のことから、心理学部の教員組織も、これらの規程を踏まえた構成としている。

今後、若手の准教授や講師については、教育・研究業績を蓄積させ、教授職位の教員が退職した後の後任として、教員組織の中核となるよう育成を行っていく。同時に、完成年度以降に退職する教員の専門領域を考慮し、将来の教員組織を長期的に見据えた上でバランスよく採用し、教育研究の継続的な維持向上を図るよう努める。

【資料 7】甲南女子大学教員定年規程、甲南女子大学第 1 種特任教員・甲南女子大学第 2 種特任教員規程、甲南女子大学教育職員の任期制に関する規程

10. 研究の実施についての考え方、体制、取組

教員の研究活動を支援する事務部門として、教育・研究支援課を設置し、学内外の研究費応募及び使用、報告に関する諸手続きについて支援するとともに、適切に管理しており、科学研究費助成事業等の外部研究資金についても、事務部門が公募情報を

収集し学内に周知している。また、個人研究費の他に、研究環境の改善及び研究機能の向上に活用し、更に学術研究の質を向上させるため、研究推進費がある。獲得した外部研究資金における間接経費の額に応じて、研究者である教員が所属する学科に「研究推進費」を還元する制度である。さらに、教員は、その研究の成果を研究紀要又は学術雑誌等に発表することで、教育・研究水準の向上及び国際交流の進展を図っている。なお、甲南女子大学では研究紀要を含む学術成果物を、「甲南女子大学学術情報リポジトリ」により無償で社会に広く公開している。

また、研究活動における不正行為に関する規則として「甲南女子大学における研究上の不正行為に関する取扱規程」【資料 8】を定める他、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成 26 年 8 月 26 日文部科学大臣決定）、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成 19 年 2 月 15 日文部科学大臣決定）に従い、「研究費不正防止の基本方針」「甲南女子大学における公的研究費不正防止計画」【資料 8】を定め厳正に運用している。

【資料 8】甲南女子大学における研究上の不正行為に関する取扱規程、研究費不正防止の基本方針、甲南女子大学における公的研究費不正防止計画

11. 施設、設備等の整備計画

1) 校地、運動場の整備計画

甲南女子大学のキャンパスは、兵庫県神戸市東灘区に位置しており、大学までの総所要時間は、スクールバスを利用した最短時間で JR 大阪駅から約 30 分、JR 三ノ宮駅から約 20 分と、兵庫県及び大阪府を中心とした近畿地区において、通学の利便性が高い立地となっている。

校地面積が 77,760.93 m²で、そのうち校舎敷地面積は 49,283.57 m²である。また、運動場用地面積は 28,477.63 m²、運動用設備を具備した体育館面積は 1,934.76 m²、講堂面積は 5,402.53 m²、厚生補導施設 2,148.76 m²を有しており、いずれも大学設置基準を充足した面積である。

さらに、全学部生の共有施設として、上記のスポーツ施設、講堂、厚生補導施設に加え、図書館、食堂、売店、書店等を完備しており、教育研究にふさわしい環境整備に努めるため、大学敷地内を全面禁煙とし、美化・緑化にも継続的に取り組んでいる。また、高い樹木の下や空地等にはテーブルやベンチを設置し、学生の休息や談話の場を提供しており、今後も積極的に学生のための教学環境の整備と充実を図る予定

である。

2) 校舎等施設の整備計画

心理学部では、その母体となる学科であり学生募集を停止する人間科学部心理学科と同じく、甲南女子大学キャンパスの3号館、4号館、5号館、7号館、9号館校舎の教室を主に使用する。なお、心理学部の開設に伴い学生募集を停止する人間科学部心理学科は新設する心理学部と収容定員が同一で、これまでも余裕を持って教室の運用が実施できている。授業を実施する教室については、上記校舎の教室において、教育課程が支障なく開講できることを確認しており、各授業科目における教室の使用計画【資料9】も策定している。

また、全ての基幹教員10人に対し、空調設備、学内LANを経由したインターネット環境、机、椅子、書架等の什器類を備えた個人研究室を割り当てている。

上記のとおり、甲南女子大学では大学設置基準を踏まえた上で、心理学部の教育課程が円滑に実施できる環境を有する校舎等の教育研究施設を整備している。

【資料9】教室の使用計画

3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書館全体の総蔵書数は508,411冊（令和6年3月現在）で、その内訳としては、内国書が331,705冊、外国書が176,706冊である。また、学術雑誌は33,104種（内国書：6,292種、外国書26,812種）、そのうち電子ジャーナルは27,412件（内国書：1,627件、外国書：25,785件）を所蔵している。

なお、心理学部に関連する心理学領域（日本十進分類表14）の図書については、図書9,064冊（内国書：5,242冊、外国書：3,822冊）であり、既に十分な量と内容の図書を整備している。毎年度の定期的な図書の整備も行うことで、既存の共用図書と併せて、教育研究を行う上で十分な冊数・種類の整備を進めていく。心理学部で講読する学術雑誌の明細については、【資料10】のとおりである。

本館と新館（書庫棟）の2棟があり、本館は地下1階から地上4階、新館は地上3階（一部地下1階）の建物となっている。館内には、館内に計450席の閲覧座席数を配置しており、グループ学習用のスペースを4室に加え、対面朗読室を設置している。カウンターにはレファレンスコーナーを設置し、常時、利用者に対応できるようにしている。また、多言語対応、マイライブラリー等の機能システムを導入し、蔵書検索のみならず、図書の購入及び予約、相互利用の申し込み等についても可能なシス

テムとなっている。

また、他の大学図書館との協力体制については、国立情報学研究所の「NACSIS-ILL（図書館間相互貸借システム）」に参加し、他大学図書館及び研究機関との間で文献複写、図書貸借、図書閲覧等の相互利用を行っている。

【資料 10】学術雑誌一覧

12. 管理運営

1) 学部教授会

学部教授会は、教授、准教授、講師及び助教により構成され、原則として月 2 回開催している。教授会にて審議を行い、学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項は次のとおりである。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 教育課程の編成に関する事項
- (4) 教員人事に係る教育研究業績の審査に関する事項

また、学長の求めに応じて意見を述べることができる事項は、次のとおりである。

- (1) 学生の休学、復学、退学、転部、転科、再入学、除籍及び復籍に関する事項
- (2) 学生の試験に関する事項
- (3) 科目等履修生、聴講生、特別聴講生、研究生、外国人特別生及び委託生に関する事項
- (4) 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (5) 関係規程等の制定、改廃に関する事項
- (6) 自己点検・評価の実施に関する事項
- (7) 大学評議員の選出に関する事項
- (8) 学長又は学部長が諮問する事項

2) 合同教授会

合同教授会は、学長、学部長、教授、准教授、講師及び助教をもって構成し、開催に当たっては、学部長又は所管部長が立案し、学長の下承を得て開催される。合同教授会にて審議される事項は次のとおりである。

- (1) 入学試験に関する事項

(2) 学部間の調整に関する事項

心理学部においても、既設の学部学科と同じく学長、学部長、学科長の管理の下、学部の教育目標及び研究に合致した管理運営体制となるよう運営を行っていく。

3) 教学経営会議

大学の教学及び経営の発展を目的に、全学的、中長期的又は戦略的事項等を立案、審議、決定等を行うために、教学経営会議を設置している。教学経営会議は、学長を議長とし、甲南女子高等学校・中学校長、常務理事、副学長、学部長、事務局長で構成され、発言権のあるオブザーバーとして、教務部長、入試部長、事務局次長、総務課長、経営企画課長、その他会議が出席を要すると認めた者が出席する。原則として毎月2回開催することとしており、教学経営会議の審議事項は次のとおりである。

- (1) 大学設置等の計画に関する事項
- (2) 学生募集計画に関する事項
- (3) 学生教育計画に関する事項
- (4) 大学教員人事計画に関する事項
- (5) 大学職員に関する特に重要な事項
- (6) 大学組織計画に関する事項
- (7) 大学中長期計画に関する事項
- (8) 学長からの重要な諮問事項
- (9) その他の事項

13. 自己点検・評価

1) 実施体制及び実施方法

甲南女子大学では、平成12(2000)年より、定期的に自己点検・評価を実施している。実施に当たっては、「甲南女子大学評価委員会規程」【資料11】を定め、大学評価委員会を設置している。大学評価委員会の構成員は、学部、部署、IR活動委員会、FD(Faculty Development)委員会等の組織責任者で構成される。委員長である学長の全学的な方針の下、副委員長である大学評価担当の学長補佐を中心に、教職協働により自己点検・評価活動を推進している。直近では、令和3(2021)年度に、第3期目の大学機関別認証評価受審を対象とした自己点検・評価活動を実施し、令和4(2022)年度に認証評価機関である公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評

価を受審し、適合判定の評価を受けている。

また、自己点検・評価、認証評価、設置計画履行状況等調査等の結果を踏まえた中長期的な計画に基づく内部質保証については、中期計画、事業計画及び事業報告を連動させ、PDCA サイクルを機能させている。事業計画の策定に当たっては、自己点検・評価の結果等を踏まえ、年度の重点施策を学長から提示した上で、学科及び部署ごとに中期計画の重点テーマに応じた取組を検討しており、事業計画・事業報告シートにおいて中間・期末ごとに進捗状況を確認しながら、中期計画の達成を促す仕組みとしている。

現在は、第 6 次となる中期計画を推進しており、大学の使命である「建学の理念を基盤に、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性の育成」を果たすため、「教育の質の向上」を中心とした戦略を策定し、様々な重点施策を推進している。

【資料 11】甲南女子大学大学評価委員会規程

2) 結果の活用

自己点検・評価活動の結果は、『自己点検評価書』を作成するだけでなく、教職員が閲覧できるよう、学内イントラネットを通じて報告書及びエビデンスデータを公開しており、大学評価委員会の構成員に対しては、作成した報告書の冊子を配布している。また、学外に対しても、大学 Web サイトに報告書データを掲載し社会に広く公開することで、教育研究活動及び自己点検・評価活動の結果を共有している。

14. 情報の公表

甲南女子大学では、教育研究活動等の状況に関する情報について説明責任を果たすため、受験生、在学生、保証人及び卒業生等に向けて、大学 Web サイトを中心に積極的な発信を行っている。具体的な内容は、以下のとおりである。

1) 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

①教育理念・建学の理念

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/message/policy.php>

②学則

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/regulation.php>

③ディプロマ・ポリシー(卒業又は修了の認定に関する方針)、カリキュラム・ポリシ

ー(教育課程の編成及び実施に関する方針)、アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

<https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/>

2) 教育研究上の基本組織に関すること

①組織

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/>

②学部・大学院

https://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/

3) 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

①教育研究実施組織の概要

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/>

②教育研究実施組織の役職者一覧

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/#information002>

③組織別・職位別・年齢構成別・男女別教員数

https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/pdf/org_jobtitle_age.pdf

④教員の業績、専門分野、保有学位等

https://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/teachers/

⑤教員と非常勤教員の比率

https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/pdf/full_part_ratio.pdf

⑥教員 1 人当たりの学生数

https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/pdf/students_per_teacher.pdf

⑦教員職員の任期制に関する規程

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/faculty_term.pdf

4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

①入学定員・収容定員

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/#information009>

②在学生数

https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/pdf/number_enrolled.pdf

③卒業生数・修了者数

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/#information012>

④キャリア形成支援、就職支援の状況

<https://www.konan-wu.ac.jp/career/>

⑤就職状況

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/career_data.pdf

⑥国家試験等合格実績及び教員免許取得者数

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/licence_multi.pdf

⑦大学院への進学率

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/grad_multi.pdf

⑧外国人留学生（卒業生）の就職状況

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/career_data_international.pdf

5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

①大学のカリキュラム

https://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/

②大学院のカリキュラム

https://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/

③授業計画（シラバス）

https://lily.konan-wu.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_c953B28B5-52B3-94C1-C7B7-E684D66F463B_k7C57B1DB-8172-D0CC-16AC-BF54A06B9173

④カリキュラムマップ

https://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/class/curriculum_map.php

⑤学年暦

<https://www.konan-wu.ac.jp/campuslife/calendar/>

6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

①学則（成績評価基準・卒業認定基準・修了認定基準）

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/regulation.php>

②学則（大学・大学院の科目区分別必要単位数）

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/regulation.php>

③GPA について

<https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/gpa.pdf>

④大学院人文科学総合研究科の学位論文審査基準

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/criteria_human.pdf

⑤大学院看護学研究科の学位論文審査基準

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/criteria_nursing.pdf

7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

①キャンパスマップ、施設概要

<https://www.konan-wu.ac.jp/institution/map/>

②交通アクセス

<https://www.konan-wu.ac.jp/access/>

③校地・校舎の面積

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/estate.php>

④校舎等の耐震化率

https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/pdf/earthquake_resistant.pdf

8) 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

①大学の学費等

<https://www.konan-wu.ac.jp/admission/fee/tuition/>

②大学院の学費等

<https://www.konan-wu.ac.jp/admission/fee/tuition/grad.php>

③学生寮費

https://www.konan-wu.ac.jp/campuslife/student_support/dormitory.php#fee

9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

①就学支援の状況

<https://www.konan-wu.ac.jp/admission/fee/scholarship/>

②カウンセリング体制

[https://www.konan-](https://www.konan-wu.ac.jp/campuslife/student_support/nurse.php#mental_support)

[wu.ac.jp/campuslife/student_support/nurse.php#mental_support](https://www.konan-wu.ac.jp/campuslife/student_support/nurse.php#mental_support)

③留学生支援

https://www.konan-wu.ac.jp/international/foreign_support/

④障がい者支援

https://www.konan-wu.ac.jp/campuslife/student_support/teacher_advice.php

⑤その他支援

https://www.konan-wu.ac.jp/campuslife/student_support/nurse.php

10) その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

①寄附行為、財務状況、役員報酬規程

<https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/>

②役員一覧

<https://gakuen.konan-wu.ac.jp/message/>

③大学評価

https://www.konan-wu.ac.jp/jiheer_report/

④認可申請書等

https://www.konan-wu.ac.jp/about/action/report/application_report.php

⑤「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく機関内の責任体系及び窓口について

<https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/research/academics/system.php>

⑥社会貢献活動

https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/social_action/

⑦甲南女子大学ガバナンス・コード

<https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/governance.pdf>

⑧甲南女子大学ガバナンス・コードの適合状況に関する点検結果

https://www.konan-wu.ac.jp/publication/pdf/governance_result.pdf

⑨大学等における修学の支援に関する法律施行規則第7条第2項の規定に基づく更新確認申請書

<https://www.konan-wu.ac.jp/about/action/report.php>

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1) 授業内容の及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

甲南女子大学における FD 活動は、建学の精神と教学の理念を踏まえて、学部学科が掲げる教育目的を実現するために、教育学習効果を最大限に高める取組と定義し、FD 委員会【資料 12】を中心に活動をしている。FD 委員会では、授業公開、授業改善のためのアンケート実施等、教授方法の改善を効果的に進めるための取組を実施している。

授業公開では、参観者が必ず感想シートを提出する等、授業担当者と参観者との双方向型で行っている。授業後に開催する検討会では、授業全般だけでなく、FD、学生対応、各種機材の活用方法等、参加者が様々な情報を共有することができる。この取組は、全学科対象としているため、学科を超えた情報交換等により、全学的な相乗効果を生むことができる。

また、授業改善のためのアンケートは、年 4 回（前期中間、前期末、後期中間、後期末）実施しており、アンケート項目は、実施時期に合わせた内容に随時変更している。アンケート結果は、次のセメスター以降の授業改善を目的に、科目単位、個人単位の集計データ及び自由記述部分の記載内容について、全ての授業担当教員に対しフィードバックしている。さらに、大学全体、学科別、科目区分別に集計を行い、これらの全データを学長、学部長及び FD 委員長が共有し、問題点の改善に当たるとともに、学生に対しても結果をフィードバックしている。

さらに、年度末には、教員の資質向上と自己能力の開発及び自己啓発を目的として、教員による自己評価を実施している。そのツールとして、教員自己評価票を作成することとしている。教員自己評価票では、「教育活動」「大学運営」「社会活動」等の評価項目について、自己評価を行っている。教員自己評価票の内容は、学長及び学部長が確認することにより、教育活動の改善につなげている。

今後も、教員の授業内容及び方法について改善し、更に向上させるための組織的な研修として FD 活動を推進する。

【資料 12】甲南女子大学 FD 委員会規程

2) 大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組

大学設置基準第 42 条の 3 及び甲南女子大学の中長期的な重点取組として、職員の資質・能力向上を目的として様々な研修を実施する SD 活動を推進している。具体的には、教職員合同による研修、職員階層別研修、入職 1 年目の導入研修、入職 2 年目

のフォローアップ研修が挙げられる。【資料 13】

教職員合同による研修では、大学運営は教職協働により行われることから、SD についても教員及び職員が一体となって取り組む機会を設けている。この研修では、基礎的な資質向上を図るため、情報セキュリティ研修、ハラスメント研修、メンタルヘルス研修に取り組んでいる。

職員階層別研修では、職位別に、副主任・書記研修、課長補佐・主任研修、管理職研修の 3 グループに分かれており、職位によって必要な知識及び技能を効果的に習得するための体制としている。

入職 1 年目の導入研修では、学長や常務理事の講話、学園の歴史や教育理念、人事制度、中期計画、各種規程、各部署の業務内容の紹介等、学園の全体像を学ぶ機会としている。

また、入職 2 年目のフォローアップ研修では、1 年間業務を経験して感じること、組織の中で求められる自分の役割を改めて認識し、主体的かつ能動的に行動できる職員になるための研修としている。

【資料 13】 甲南女子大学 SD 活動実績

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1) 教育課程内の取組について

心理学部では、心理学の基礎を身につけた上で、社会や身近にある課題に気づき、客観的な観察力、論理的な思考力、数量的なデータ処理能力、AI 等の先進的なテクノロジー、共感性及びコミュニケーション力を活用し、その解決に向けて取り組むことができる人材の育成を、教育目的としている。この目的を達成するため、心理学部では社会的・職業的な自立を促すための教育課程を編成している。

まず、心理学部の専攻科目においては、必修科目として 1 年次に「心理学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」を配置している。この授業科目では、大学で心理学を学ぶために必要な基礎的な能力の獲得を目標としており、大学生活に必要な学習スタイルを身につけるだけでなく、グループワーク等を通し、自分や他人の意見を分かりやすくまとめ表現・発表することができるコミュニケーション力を身につける。さらに、「公認心理師プログラム」「キャリア・マネジメントプログラム」「ライフデザインプログラム」のいずれにおいても、将来の職業生活及び人生全般を自立的で豊かなものにするため、「公認心理師の職責」「キャリア・マネジメント入門」「暮らしのなかの心理学」等の

授業科目を配置し、専門職業人としても社会的・職業的自立を促す指導を行っている。

また、全学共通科目では、「基礎スキル科目」「リーダーシップ科目」「キャリア支援科目」を設置している。基礎スキル科目では、社会生活において必要な物事を多面的に捉える思考や、自分の考えを筋道立てて論じる方法を身につけることを目的に、「思考力トレーニング」「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ」等を配置している。リーダーシップ科目では、社会において必要不可欠な、他者と協働しチームの力を引き出すためのリーダーシップを身につけるため、「リーダーシップ入門」「リーダーシップ基礎」等の授業科目を配置している。さらに、キャリア支援科目では、卒業後の進路選択に資する力を身につけるため、協同学習を通して自分のキャリアを形成するために必要なコミュニケーション能力や課題解決思考を身につける、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業科目を配置している。

2) 教育課程外の取組について

大学の使命に基づき、「産業界等から学生に求められる力（社会人基礎力）の向上、卒業後、実際の社会現場で評価される学生の輩出」を目標に掲げ、全学生を対象としたキャリア支援を行っている。具体的には、個別相談支援、キャリアに関する各種ガイダンス及び講座等の実施等が挙げられる。【資料 14】

個別相談支援では、就職、進路等に関する学生との個別相談、履歴書及びエントリーシートの添削、模擬面接の実施を行っており、卒業後の自立及び就職を見据えた「進路の目的」を意識させる支援に努めている。相談時には、学生の意思、希望及び特性を踏まえて寄り添い、社会の実態も伝えながら、学生の社会的・職業的自立に寄与する支援を行っている。

キャリアに関する各種ガイダンス及び講座等では、1・2年次対象の就職ガイダンス、3年次対象の就職ガイダンス及び各種セミナー（履歴書等対策セミナー、企業説明会等）、4年次対象の企業説明会等を実施し、学生の就職活動を支援している。また、4年次の学生に対してはキャリアセンター職員が連絡を取り、就職活動の進捗状況を聴取し、就職につなげる支援を行っている。

【資料 14】 甲南女子大学キャリア支援年間スケジュール

3) 適切な体制の整備について

甲南女子大学では、学生のキャリア形成及び支援を主管する部署としてキャリアセ

ンターを設置し、教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制を整備している。キャリアセンターは、キャリアセンター長統括の下、キャリアセンター副部長等の職員で構成され、状況に応じてキャリアカウンセラー、受付人員等を別途配置している。学生支援に当たっては、就職、進学のみを目標とするのではなく、就職（進学）活動を社会人としてのスタートライン及び実践の場とし、人生における一つの通過点と捉え、自立して幸福な人生を送る力を身につけることを目標としている。